

授業科目	基礎演習	単位数	1	担当教員	宮内・中村・小堀
講義のねらいと概要	<p>保育者になるために必要な専門科目を十分に理解し、効果的な学習をするための基礎となる力を身につけるための授業である。1クラス20名程度とし、演習形式で「文章表現」と「プレゼンテーション」・「資料分析」の基礎を学ぶ。</p> <p>ここで身につけた文章力やプレゼンテーション能力、資料分析力は、幼稚園教諭免許や保育士資格に必要な5回の実習の際にも大きな力を発揮するはずであるし、卒業後、保育者として現場に出たときにも、必ず必要とされる能力なので、積極的に授業に参加することが望まれる。</p>				
授業計画	第1週	文章表現①：良い文章と悪い文章・主語と述語の配置			
	第2週	文章表現②：センテンスの区切り方・修飾語と被修飾語の配置			
	第3週	文章表現③：敬語の使い方・丁寧語の使い方			
	第4週	文章表現④：語彙の習得			
	第5週	文章表現⑤：漢字を学ぶ			
	第6週	文章表現⑥：文書マナー			
	第7週	文章表現⑦：文書マナー			
	第8週	プレゼンテーション①：自分を知ろう			
	第9週	プレゼンテーション②：自分を表現しよう			
	第10週	プレゼンテーション③：なりたい自分は？			
	第11週	プレゼンテーション④：どんな保育者をめざすか			
	第12週	資料分析①：少子高齢社会を読む			
	第13週	資料分析②：子育て環境を読む			
	第14週	資料分析③：子どもの貧困を読む			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法履修上の注意	<p>各クラスを2グループに分け、1つのグループは上記授業計画の第1週目の授業内容から始め、もう1つのグループは第8週目の授業内容からスタートする形で進める。</p> <p>卒業及び資格必修科目なので、全員が履修すること。</p>				
成績評価の方法	筆記試験及び課題（50%）、授業態度（50%）				
教科書	特になし				
参考文献	授業中に適宜紹介する。				

授業科目	日 本 国 憲 法	単位数	2	担当教員	平 田 陽 一
講義のねらいと概要	<p>国民主権・基本的人権の尊重を基本的理念とする憲法を理解するためには、その法思想的背景を理解する必要がある。これらの憲法上の法理念がわが国で生まれたものではなく、西欧で生まれた自然法思想などに由来するものだからである。しかもこれらの法理念はわが国の教育においてほとんど説明されていないものである。それが原因となって、個人的レベルでは自律した人間としての成長の阻害、社会的レベルでは他人の人権（生命・身体・自由など）に対する無思慮な侵害、国家的レベルでは民主主義の未成熟というような重要な問題を生じさせ、年々より深刻な状況に陥らせている。講義では、憲法の基本原理などについて説明をする。</p>				
授業計画	第1週	憲法について			
	第2週	自然法思想と近代立憲主義			
	第3週	近代国家と憲法			
	第4週	憲法の基本原理 = 平和主義			
	第5週	憲法の基本原理 = 国民主権主義			
	第6週	憲法の基本原理 = 人権尊重主義			
	第7週	憲法の基本原理 = 権力分立主義			
	第8週	国民の権利 = 人権			
	第9週	国民の権利 = 自由権			
	第10週	国民の権利 = 社会権			
	第11週	国民の権利 = 参政権等			
	第12週	統治機構 = 立法機関			
	第13週	統治機構 = 行政機関			
	第14週	統治機構 = 司法機関			
	第15週	憲法の現代的諸問題			
指導方法 履修上の 注 意	<p>憲法は国家（政府）と国民の関係についての基本的な法規範であり、「講義のねらいと概要」で簡単にふれたところであるが、個人の幸福や社会の一員としてのあり方と密接な関係にある。したがって、一般教養として憲法を勉強するという意識ではなく、より意欲的な、自己の人生（幸福の追求）や社会のあり方を考えるという心構えで勉強することが望まれる。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（80%）、授業態度（20%）、原則として筆記試験の結果による。				
教 科 書	『現代社会の法と民法』（小野幸二編著、八千代出版）				
参 考 文 献	参考文献は初回の講義のときに説明をする。				

授業科目	体 育 実 技		単位数	1	担当教員	山城屋正満・岡 芳郎
講義のねらいと概要	<p>短期大学での体育は、生涯生活を健康で人間性豊かに過ごすための幅広い教養を身につける場である。健康は、スポーツ、その他の身体活動の継続的な実践により維持、増進されることが明らかにされている。健康の維持増進を狙いとして活用される運動は、多種多彩である。それぞれの運動内容は、運動様式、運動形態、運動方法などにより、質的、量的に異なる。</p> <p>体育実技は、現在までの体育的な素養を基礎とし生涯体育を念頭において、各種運動、スポーツ種目の実践を通して、身体に関する知識と各種運動の方法を知るとともに、次のような狙いを持って実習する。</p> <p>1) 心身の発育発達の促進および健康体力の維持増進のための運動方法の学習。  2) 社会性および道徳性の育成。  3) 生涯スポーツに関連した自己開発能力の育成。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション 次にあげる3つのコースから選択できる。 (第10時限までは、共通) 1) 平常コース 2) スケート教室(12月下旬 3泊4日) 3) スキー教室(2月初旬 3泊4日) (スノーボードの体験授業がある。) 上記コースについて説明。	第12週	第13週	軽スポーツ(フリスビー、フラフープなど)	ソフトバレーボール
	第2週	準備運動(ストレッチなど)	第14週	第15週	ソフトバレーボール	ソフトバレーボール
	第3週	集団行動	第16週	第17週	卓球	卓球
	第4週	スポーツマッサージ	第18週	第19週	卓球	卓球
	第5週	テニス	第20週	第21週	バスケットボール	バスケットボール
	第6週	テニス	第22週	第23週	バスケットボール	バスケットボール
	第7週	テニス	まとめ			
	第8週	テニス				
	第9週	バドミントン				
	第10週	バドミントン				
	第11週	バドミントン				
指導方法履修上の注意	2) スケート・3) スキーコースに係る各諸費用については、全額学生の負担となる。体育着は自由である。シューズは体育館用、外用が必要である。					
成績評価の方法	1) 平常コース 試験(40%)、授業態度(40%)、実技(20%) 2) スケート教室 試験(40%)、授業態度(40%)、実技(20%) 3) スキー教室 試験(40%)、授業態度(40%)、実技(20%)					
教科書	適宜、プリントを配布。					
参考文献						

授業科目	体 育 講 義	単位数	1	担当教員	山城屋正満・岡 芳郎
講義のねらいと概要	<p>短期大学における保健体育は、小学校、中学校、そして高等学校での体育、保健の学習を基礎として、生涯を健康に生きるために必要な人間の身体特性について、科学的理論に基づいた幅広い教養を身につけることである。</p> <p>運動やスポーツは、正しい理解のもとに実施される健康と体力の維持増進に寄与できる。</p>				
授業計画	第1週	現代生活と運動			
	第2週	健康と体力			
	第3週	心身の発育発達と運動学習			
	第4週	スポーツの学習			
	第5週	体力の診断と体力づくり			
	第6週	トレーニング科学			
	第7週	社会体育			
	第8週	応急処置	(第8週で終了)		
	第9週				
	第10週				
	第11週				
	第12週				
	第13週				
	第14週				
	第15週				
指導方法 履修上の 注 意	授業の開始は11月である。				
成績評価の 方 法	試験(50%)、レポート(10%)、授業態度(40%)				
教科書	適宜、プリントを配布。				
参考文献					

授業科目	宗 教 と 文 化	単位数	2	担当教員	宮 内 淳 平
講義のねらいと概要	私達は常日頃いろいろな宗教とふれ合っている。本講義では、日常生活に横たわっている宗教に関する主要なテーマを取りあげ、それらの宗教行事に流れる思想・文化等多角的に検討し、日本人と文化について考えてみる。また、それぞれのテーマの中で、具体的に日本の民族宗教である神道、中国の民族宗教である道教・儒教等にもふれ、民間伝承宗教行事の具体例をも取りあげ、死生観を含み宗教の役割及び機能について総合的に考えてみる。				
授業計画	第1週	日常の宗教的考えについて			
	第2週	日本人の宗教に対する考えと信仰の自由について			
	第3週	宗教の誕生と起源			
	第4週	原始宗教とアニミズム・シャーマニズム・トーテミズム			
	第5週	宗教の定義・宗教の分類			
	第6週	宗教儀礼と通過儀礼			
	第7週	日本神話の歴史と神道について			
	第8週	呪術と祈りについて			
	第9週	生活の中の宗教と民間信仰			
	第10週	天の思想と中国民族宗教及び儒教について			
	第11週	中国道教について生活			
	第12週	日本人の死生観『地蔵十王経』について			
	第13週	日本人の死生観『地蔵十王経』について			
	第14週	宗教と科学の関係について及び現代社会のでの宗教問題について			
	第15週	現代社会と宗教と生き甲斐について			
指導方法履修上の注意	授業で毎回レジュメを配布するのでテキストは特に使用しない。講義の時適宜レジュメを配布予定。欠席した場合は友達からコピーするなど必ず用意すること。				
成績評価の方法	筆記試験（60%）、授業態度（40%）				
教科書	特に使用しない。				
参考文献					

授業科目	現代社会事情	単位数	2	担当教員	松木久子
講義のねらいと概要	<p>日々さまざまな問題が起きている現代社会ですが、一見、「私には関係ない。知らなくても問題は無い。」と思われるようなことでも実は大いに関係があり、自分の将来が左右される問題であるかもしれません。社会に巣立っていく学生のみなさんに、必要と思われる情報を適宜与え、一般常識として「そんなことも知らないなの！本当に短大を卒業したの？」と言われたいのためにも、社会を見る目を養い認識を深めるために時事問題に関して広範に取り上げていきます。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション：履修上の注意、講義内容の概要等			
	第2週	社会(1)：司法制度改革			
	第3週	社会(2)：格差・少子高齢化社会			
	第4週	社会(3)：年金問題、医療保険改正			
	第5週	政治(1)：与党と野党			
	第6週	政治(2)：憲法改正論			
	第7週	政治(3)：選挙制度			
	第8週	経済(1)：消費税率引き上げ問題			
	第9週	経済(2)：株価動向			
	第10週	国際(1)：北朝鮮問題			
	第11週	国際(2)：アメリカ大統領選挙			
	第12週	国際(3)：国際連合と国際機関			
	第13週	地球温暖化問題(1)			
	第14週	地球温暖化問題(2)			
	第15週	試験およびこれまでのまとめ			
指導方法 履修上の注意	<p>授業形態は講義が中心となりますが、発表や映像鑑賞を取り入れたりしながら、弾力的に展開していこうと思います。日頃から身の回りの出来事に興味・関心を持ち、毎日一回は新聞に目を通し、ニュースに耳を傾けてください。図書館等を利用して、自ら積極的に調べることを通して、主体的に学ぶ態度を養ってください。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（40％）、発表（30％）、授業態度（30％）				
教科書	特に指定はしません。				
参考文献	授業中に適宜、必要なプリント・資料等を配布します。				

授業科目	エ コ ロ ジ ー 入 門	単位数	2	担当教員	中 村 陽 一
講義のねらいと概要	<p>エコロジー（Ecology = 生態学）とはギリシア語で「家」を意味する oikos（オイコス）から作られた言葉で、本来は「家の学問」という意味である。ここでいう「家」とは生物とそれを取り巻く環境全体を意味する。すなわち、エコロジーとは「生物と環境のかかわりを研究する学問」であり、「環境生物学」と同義語である。</p> <p>近年、環境問題が深刻化する中、「エコロジー」は、人間と自然との共存を目指すようになった。現在では、エコロジーあるいは、エコ**という言葉は、環境に配慮した生き方や、商品・経済・システムなどに広く用いられている。本講では、人類が地球環境に対して与えてきた影響について歴史的に検証し、地球上で起きている環境問題の現状を学ぶ。</p>				
授業計画	第1週	エコロジー（生態学）とは何か	～その思想と歴史～		
	第2週	エコロジーから見た世界史	～イースター島の悲劇～		
	第3週	エコロジーから見た世界史	～古代文明と森林破壊～		
	第4週	エコロジーから見た世界史	～西欧文明と環境破壊～		
	第5週	エコロジーから見た世界史	～大航海時代の光と影～		
	第6週	エコロジーから見た日本史	～自然と共存した縄文文化～		
	第7週	エコロジーから見た日本史	～持続可能社会だった江戸時代～		
	第8週	エコロジーから見た日本史	～公害問題と環境問題～		
	第9週	環境問題の現状	～大気汚染と水質汚濁～		
	第10週	環境問題の現状	～オゾン層破壊～		
	第11週	環境問題の現状	～ごみとリサイクル～		
	第12週	環境問題の現状	～地球温暖化の現状～		
	第13週	環境問題の現状	～温暖化は何をもたらすか～		
	第14週	エネルギーとエコロジー	～原子力と自然エネルギーをどうするか～		
	第15週	地球の未来はどうなるか	～人口増加と資源・食糧問題～		
指導方法 履修上の 注意	日常から環境問題に関心を持ち、問題意識を持って取り組むこと。				
成績評価の 方法	期末試験（70%）、小テスト（30%）				
教科書	環境経営論（中村陽一著、創成社）				
参考文献	授業中に紹介する				

授業科目	情報機器操作	単位数	2	担当教員	金 宰 郁
講義のねらいと概要	<p>情報機器は幼児教育の場においても、その進展は目覚ましいものがあります。これからの時代を考慮すると、教育現場におけるマルチメディアを用いての、楽しく創造的な教育の方法がさらに望まれると考えられます。また、教育に関連する文書業務・情報交換・情報収集等は、コンピュータによりその多くが行われていると考えられます。</p> <p>本科目では、幼児教育を行う方法の上での技術として、情報機器を利用するには、どのような考え方でどのような情報機器を用いて行うことが最も適切なのかについて理解を図ります</p>				
授業計画	第1週	この授業科目に関するガイダンス			
	第2週	Windows の基本操作(1) : OS, GUI, 自己紹介文作成および提出			
	第3週	Windows の基本操作(2) : ファイル管理, 種類, 文書の保存・読込み, その他			
	第4週	絵の作成の基礎(1) : 絵描きソフト (ペイント) による文化表現関連課題の作成および提出			
	第5週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(1) : 文書形式, 文書のコピー・移動・削除の関連課題の作成および提出			
	第6週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(2) : 文字サイズの変更, 文字揃えなどの関連課題の作成および提出			
	第7週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(3) : 均等割付・段組, 縦書き文字などの関連課題の作成および提出			
	第8週	日本語ワープロソフト「Word」の基礎(4) : 表作成と編集①の関連課題の作成および提出			
	第9週	日本語ワープロソフト「Word」の応用 : 表作成と編集②の関連課題の作成および提出			
	第10週	日本語ワープロソフト「Word」の応用 : クリップアート, ワードアートの関連課題作成, 及び提出			
	第11週	日本語ワープロソフト「Word」の応用 : 図形描画の関連課題作成, 及び提出			
	第12週	日本語ワープロソフト「Word」の応用 : 段組み, ドロップキャップ, ページ罫線の関連課題作成, 及び提出			
	第13週	プレゼンテーション「PowerPoint」: 発表の構成とスライド, オブジェクトの編集, その他			
	第14週	プレゼンテーション「PowerPoint」: 発表の準備, その他			
	第15週	プレゼンテーション発表 : プレゼンテーション発表 : グループごとに PowerPoint で 1 つの作品を作り, 発表			
指導方法履修上の注意	<p>本授業では、情報機器によりよく利用・操作するための基本を講義するとともに、その具体的な例を示し指導します。したがって、</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 積極的に授業に参加すること。やむを得ない理由により授業を欠席する(欠席した)場合、すみやかに担当教員に連絡して必要な指示を受けてください。</li> <li>2) 情報機器の操作技術の基礎理論を身に付けるには、かなりの努力を必要とします。予習・復習を怠らず頑張ってください。</li> <li>3) 課題が出題された場合、担当教員の指示する提出方法および提出期限を厳守すること。</li> </ol>				
成績評価の方法	課題 (40%)、発表 (20%)、授業態度 (40%)				
教科書	『文系学生のための情報活用』(共立出版)				
参考文献	『Windows Vista 対応 30 時間でマスター : Word 2007』(実教出版) 『30 時間でマスター Word&Excel 2007』(実教出版編集部、実教出版)				



授業科目	情報機器操作	単位数	2	担当教員	榎本 功子
講義のねらいと概要	パソコンの基本的な操作方法と、よく使われるアプリケーションソフトの使い方は、社会人として必要不可欠なものである。幼児教育の現場においても、園だよりやクラスだよりなど、さまざまな印刷物を作成したり、教育上必要な情報収集などのスキルが求められる。本講ではまず、コンピューターのしくみ コンピューター用語の解説 アプリケーションソフト（ワード、エクセル、インターネットエクスプローラー、メールソフトなど）について解説し、パソコンの基本的な操作法を学ぶ。次いで、ワードによるさまざまな文書の作成法を習得する。				
授業計画	第1週	コンピューターのしくみ コンピューター用語の解説 アプリケーションソフトの解説（ワード、エクセル、インターネットエクスプローラー、メールソフト）			
	第2週	ワードの使い方 文字の入力、簡単な文章の作り方、整え方			
	第3週	ワードによる文書作成 文字の設定			
	第4週	ワードによる文書作成 ワードアート			
	第5週	ワードによる文書作成 ページ設定			
	第6週	ワードによる文書作成 ハガキの設定			
	第7週	ワードによる文書作成 表の作り方			
	第8週	インターネットの使い方 「行き先を調べる」「路線を調べる」「地図を見る」			
	第9週	インターネットの使い方 「保育に使える素材を探し、保存する」			
	第10週	インターネットの使い方 素材を使って文書を作成する			
	第11週	メールの送受信とメールの書き方、写真の添付			
	第12週	多くの人に、一斉にメールを出す（メルマガ、お知らせメール）			
	第13週	ウイルスの予防と対策			
	第14週	クリスマスカードの作成			
	第15週	ポスターを作る			
指導方法 履修上の 注意	実践的な授業なので、未経験者も経験者も、スキルアップを目指して積極的に取り組むこと。				
成績評価の方法	課題（70%）、授業態度（30%）				
教科書	授業に合わせた課題プリントを配布予定。				
参考文献	必要に応じて随時紹介する。				

授業科目	英 語 ( 1 )	単位数	2	担当教員	中 島 尚 樹
講義のねらいと概要	この授業は、英語で簡単なコミュニケーションができるように、実践的な英語力の基礎を身につけるのがねらいです。具体的には、日常生活の身近な話題に関して、現在形と過去形の簡単な英文を使って自分の言いたいことが伝えられるようになることを目指します。総合的なテキストを用いて日常場面で使われるやさしい英語表現を学び、並行してプリントなどで関連する文法事項を学習していきます。また、英語学習の仕方や文化的な違いにも触れたいと思っています。いちから説明していきますから、これまでは英語が苦手だったという人も短大での英語に新たな気持ちでチャレンジしてみてください。				
授業計画	第1週	授業説明	第16週	Unit7 今英語を勉強しています(前半) 現在進行形	
	第2週	Unit 1 日本から来ました(前半) Be 動詞の構文	第17週	Unit7 今英語を勉強しています(後半) 現在進行形	
	第3週	Unit 1 日本から来ました(後半) Be 動詞の構文	第18週	Unit7 今英語を勉強しています 過去進行形	
	第4週	Unit 2 あなたの兄弟ですか?(前半) Be 動詞の疑問文	第19週	Unit 8 2年間英語を勉強しました(前半) 一般動詞の過去形(規則動詞)	
	第5週	Unit 2 あなたの兄弟ですか?(後半) Be 動詞の疑問文	第20週	Unit 8 2年間英語を勉強しました(後半) 一般動詞の過去形(規則動詞)	
	第6週	Unit 3 去年アメリカにいました(前半) Be 動詞の過去形	第21週	Unit 9 家族で沖縄に行きました(前半) 一般動詞の過去形(不規則動詞)	
	第7週	Unit 3 去年アメリカにいました(後半) Be 動詞の過去形	第22週	Unit 9 家族で沖縄に行きました(後半) 一般動詞の過去形(不規則動詞)	
	第8週	Unit 4 壁にポスターがあります(前半) 存在を表す there 構文	第23週	まとめ：一般動詞の過去形 文法問題の練習と英作文	
	第9週	Unit 4 壁にポスターがあります(後半) 存在を表す there 構文	第24週	Unit 10 今年の夏何をしますか?(前半) 未来を表す表現	
	第10週	まとめ：Be 動詞の現在形と過去形 文法問題の練習と英作文	第25週	Unit 10 今年の夏何をしますか?(後半) 未来を表す表現	
	第11週	Unit 5 家で映画を見ます(前半) 一般動詞の現在形	第26週	Unit 11 だれと一緒にいきますか?(前半) 疑問詞の疑問文	
	第12週	Unit 5 家で映画を見ます(後半) 一般動詞の現在形	第27週	Unit 11 だれと一緒にいきますか?(後半) 疑問詞の疑問文	
	第13週	Unit 6 日曜日は早く起きますか?(前半) 一般動詞の現在形(疑問文)	第28週	Unit 12 赤ワインを一本ください(前半) 数量の表し方	
	第14週	Unit 6 日曜日は早く起きますか?(後半) 一般動詞の現在形(疑問文)	第29週	Unit 12 赤ワインを一本ください(後半) 数量の表し方	
	第15週	前期期末試験・まとめ	第30週	後期期末試験・まとめ	
指導方法 履修上の 注 意	テキストに沿って、各課の前半では聞き取り、文法の説明などを、後半ではリーディング、英作問題などをやっていきます。英語が書けて、話せるようになるためには、その課で学んだ構文を確実に覚えていくことが非常に重要です。少しでもいいので、必ずテキストに出てくる単語や例文を覚えていってください。テキストに付いているCDを何度も繰り返し聞くのもいいでしょう。聞き取りの試験はありませんが、筆記試験に大いに役立ちます。				
成績評価の方法	筆記試験(70%)、課題(20%)、授業態度(10%)				
教科書	『Can-Do English』(妻鳥千鶴子・松井こずえ・稲盛泰代 著、桐原書店)				
参考文献					

授業科目	英 語 ( 1 )	単位数	2	担当教員	須 釜 幸 男
講義のねらいと概要	<p>「英語とコンピュータが出来れば、食いつぶぐれない」という台詞はグローバル化時代に、より切実になってきました。英語の得意・不得意、好き・嫌いは置いておき、この授業で英語に親しみながら、英語のイロハを体得していきましょう。そこで、英語圏の文化に注目します。会話に花咲かせるためにも、時事英語や映画が題材（通販ブーム、個人情報漏洩、医療不信、民営化、派遣村、ケータイ文化、格差社会、現代アート、税負担、仕事と家庭の両立、幸せのあり方など）です。社会トレンドを先取りしながら、あなたの好感度を高めていきましょう。また、仕事で必要な TOEIC® の基礎や学習方法についても、丁寧に解説していきます。</p>				
授業計画	第1週	前期ガイダンス	第16週	後期ガイダンス	
	第2週	TOEIC® Part 1 の解説・演習（基礎編）	第17週	TOEIC® Part 1 の解説・演習（応用編）	
	第3週	TOEIC® Part 2 の解説・演習（基礎編）	第18週	TOEIC® Part 2 の解説・演習（応用編）	
	第4週	TOEIC® Part 3 の解説・演習（基礎編）	第19週	TOEIC® Part 3 の解説・演習（応用編）	
	第5週	TOEIC® Part 4 の解説・演習（基礎編）	第20週	TOEIC® Part 4 の解説・演習（応用編）	
	第6週	TOEIC® Part 5 の解説・演習（基礎編）	第21週	TOEIC® Part 5 の解説・演習（応用編）	
	第7週	TOEIC® Part 6 の解説・演習（基礎編）	第22週	TOEIC® Part 6 の解説・演習（応用編）	
	第8週	TOEIC® Part 7 の解説・演習（基礎編）	第23週	TOEIC® Part 7 の解説・演習（応用編）	
	第9週	上半期のまとめ	第24週	上半期のまとめ	
	第10週	時事英語	第25週	時事英語	
	第11週	時事英語	第26週	時事英語	
	第12週	時事英語	第27週	時事英語	
	第13週	時事英語	第28週	時事英語	
	第14週	下半期のまとめ	第29週	下半期のまとめ	
	第15週	前期授業全体のまとめ	第30週	後期授業全体のまとめ	
指導方法履修上の注意	<p>英語力は授業での学習だけでは向上しませんので、日頃からの意欲的な学習を期待します。また、何も文法や会話ばかりが英語力だとは限りません。例えば、英語圏の文化や歴史を知ること立派な英語力向上です。英語が苦手だと思ふ人は、映画や旅行、食事、ファッション、海外事情などといった部分からアプローチすることをお勧めします。インターネットを存分に駆使して、海外の情報を収集し、日本と海外の文化の違いに触れてみて下さい。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（50%）、授業態度（50%）				
教科書	初講時に指定します。				
参考文献	初講時に指定します。				

授業科目	英 語 ( 2 )	単位数	2	担当教員	須 釜 幸 男
講義のねらいと概要	<p>英語(2)では、既に英語(1)での基礎を土台に、使える英語や英語文化を学んでいきます。そこで、皆さんが専門とする保育や子どもにテーマを合わせ、文学や映画、アニメーション、時事問題、会話などから英語を学習していきます。受講に際しては、英語が苦手だからと心配することはありません。この授業の目的は、国際化時代の保育士に求められる英語の素養や国際感覚の体得です。堅苦しい英語ではなく、皆さんがこれまで身に付けてきた知恵や常識などをフルに活用して、親しみながら英語を習得していきましょう。</p>				
授業計画	第1週	前期ガイダンス	第16週	後期ガイダンス	
	第2週	幼児向け文学に触れる：欧州（基礎編）	第17週	幼児向け文学に触れる：欧州（応用編）	
	第3週	幼児向け文学に触れる：米国（基礎編）	第18週	幼児向け文学に触れる：米国（応用編）	
	第4週	幼児向け文学に触れる：日本（基礎編）	第19週	幼児向け文学に触れる：日本（応用編）	
	第5週	幼児向け映画を鑑賞する：欧州（基礎編）	第21週	幼児向け映画を鑑賞する：欧州（応用編）	
	第6週	幼児向け映画を鑑賞する：米国（基礎編）	第22週	幼児向け映画を鑑賞する：米国（応用編）	
	第7週	幼児向け映画を鑑賞する：日本（基礎編）	第23週	幼児向け映画を鑑賞する：日本（応用編）	
	第8週	まとめ	第24週	まとめ	
	第9週	保育をめぐる海外事情を知る：欧州（基礎編）	第24週	保育をめぐる海外事情を知る：欧州（応用編）	
	第10週	保育をめぐる海外事情を知る：米国（基礎編）	第25週	保育をめぐる海外事情を知る：米国（応用編）	
	第11週	保育をめぐる海外事情を知る：日本（基礎編）	第26週	保育をめぐる海外事情を知る：日本（応用編）	
	第12週	保育・子どもに用いる会話（基礎編）	第27週	保育・子どもに用いる会話（応用編）	
	第13週	保育・子どもに用いる会話（基礎編）	第28週	保育・子どもに用いる会話（応用編）	
	第14週	保育・子どもに用いる会話（基礎編）	第29週	保育・子どもに用いる会話（応用編）	
	第15週	まとめ	第30週	まとめ	
指導方法履修上の注意	<p>英語力は授業での学習だけでは向上しませんので、日頃からの意欲的な学習を期待します。また、何も文法や会話ばかりが英語力だとは限りません。例えば、英語圏の文化や歴史を知ること立派な英語力向上です。英語が苦手だと思う人は、映画や旅行、食事、ファッション、海外事情などといった部分からアプローチすることをお勧めします。インターネットを存分に駆使して、海外の情報を収集し、日本と海外の文化の違いに触れてみて下さい。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（50%）、授業態度（50%）				
教科書	初講時に指定します。				
参考文献	初講時に指定します。				

授業科目	音楽(1)基礎音楽		単位数	2	担当教員	田口雅夫
講義のねらいと概要	<p>幼児教育者として必要な音楽の基礎知識を学ぶと共に、音楽の指導技術を身につけることを目的とする。</p> <p>その為、前期には数多くの童謡を歌い、童謡の意義・歌唱法・伴奏法等を学び、後期には、その展開として指導技術を学ぶ。</p> <p>又、独立した授業としてあるピアノの演奏技術を高める為にリズムトレーニングも取り入れる。</p>					
授業計画	第1週	楽譜の読み方	第16週	等速のリズムに付ける合奏		
	第2週	楽譜の読み方・リズム唱について	第17週	合奏曲の選曲について		
	第3週	楽譜の読み方・リズム唱の応用	第18週	音程楽器を含む編曲方法		
	第4週	楽譜の読み方・リズムトレーニング	第19週	伴奏楽譜を使用した編曲		
	第5週	童謡についての理解	第20週	コードネームを使用した編曲		
	第6週	保育現場の歌唱について	第21週	オリジナル編曲		
	第7週	童謡の歌わせ方	第22週	グループによる編曲		
	第8週	童謡の伴奏方法について	第23週	自分達の編曲を発表とディスカッション		
	第9週	集団の伴奏方法の実践	第24週	リトミックの説明		
	第10週	模擬伴奏練習	第25週	短いこどもの言葉の採譜		
	第11週	三和音の理解から、即興伴奏の説明	第26週	記譜をしないメロディーの演奏法		
	第12週	即興伴奏の実践	第27週	園等で使用されている楽譜の取り扱いについて		
	第13週	合奏について	第28週	ピアノ伴奏の復習		
	第14週	リズム楽器について	第29週	即興伴奏の復習		
	第15週	簡単な曲に付けるリズムの理解	第30週	まとめ		
指導方法 履修上の 注意	<p>講義内容を理解出来ないまま終わらせたくありません。質問を歓迎します。</p> <p>(授業時間外でもかまいません)</p> <p>授業中の私語は真面目に受講している者にとって迷惑です。幼児教育者としての資質も問われる事なので、厳しく注意します。</p>					
成績評価の方法	レポート(30%)、実技(30%)、授業態度(40%)					
教科書	『実用こどものうた』(田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版社)					
参考文献	特にありませんが、プリントを配布します。					

授業科目	図 画 工 作		単位数	2	担当教員	染 谷 哲 夫
講義のねらいと概要	子どもたちの造形活動（あそぶ・えがく・つくる）を理解し展開するために、保育者として必要な基礎的な知識・技術・教養などの美的資質を高めることを目的とする。					
授業計画	第1週	授業の主旨説明 出席カードの作成	第16週	身近なものを使ってつくる（作品発表）		
	第2週	造形活動の意義と目的	第17週	立体表現の基礎（彫塑について）		
	第3週	子どもの造形表現についての理解	第18週	紙粘土で動物を作る（芯）		
	第4週	子どもの造形表現についての理解	第19週	紙粘土で動物を作る（肉付け）		
	第5週	描く表現の基礎（描学材料について）	第20週	紙粘土で動物を作る（着色）		
	第6週	描く表現の基礎（形のとらえ方と表現）	第21週	ポップアップカードのしくみ		
	第7週	描く表現の基礎（色彩について）	第22週	カード制作（試作）		
	第8週	描く表現の基礎（色彩について）	第23週	カード制作（本紙）		
	第9週	自分を見つめて描く（線描き）	第24週	カード制作（本紙）		
	第10週	自分を見つめて描く（着色）	第25週	切りがみ		
	第11週	自分を見つめて描く（着色）	第26週	版画表現の基礎		
	第12週	石ころに絵を描く	第27週	紙版画（原画）		
	第13週	つくる表現の基礎（工作・工芸について）	第28週	紙版画（版）		
	第14週	身近なものを使ってつくる	第29週	紙版画（刷り）		
	第15週	身近なものを使ってつくる	第30週	まとめと自己評価		
指導方法 履修上の 注 意	・創作活動が中心となるため、自ら考え見つめ手を動かさない限り、時間ばかり経過し何も生まれてはこない。課題に対しての準備や、制作の遅れを補うなど完成度の高い作品づくりをめざす。描画材料、素材、用具等は開講ごとに指示するので忘れずに用意する。（スケッチブック・アクリル絵の具セットは一括購入する（約3,000円）。それ以外については必要に応じて各自で購入する。）					
成績評価の 方 法	作品（60％）、授業態度（40％）					
教 科 書	『楽しい造形表現』（子ども造形表現研究会、圭文社）					
参 考 文 献	必要に応じて案内する。					

授業科目	幼 児 体 育		単位数	2	担当教員	茗 井 香 保 里
講義のねらいと概要	<p>人生の土台づくりにあたる幼児期に、正しい動き方を身につけたり、運動することの楽しさを味わわせたりすることは、幼児の運動経験や健康生活を豊かに充実させるだけでなく、これからの長い人生を社会とのかかわりのなかでバランスよく生きていく力の基礎づくりとしても重要である。そこで、幼児の発育発達の特徴をふまえ、且つ、ライフキャリア発達の視点から、幼児の動きづくりと運動あそびの重要性を理解することを目的とする。</p> <p>本講義では、生活の中にある運動あそびを中心に創造性、感性および表現力を豊かにするような内容としたい。</p>					
授業計画	第1週	心と身体の解放	第16週	基本の運動		
	第2週	「曲線」の身体表現	第17週	簡単なルールのある運動あそび		
	第3週	「直線」の身体表現	第18週	簡単なルールのある運動あそび		
	第4週	「曲線」+「直線」の身体表現	第19週	縄を使った運動あそび		
	第5週	空間について	第20週	縄を使った運動あそび		
	第6週	動きのリズムと表現	第21週	フープを使った運動あそび		
	第7週	イメージと表現	第22週	フープを使った運動あそび		
	第8週	ビデオ鑑賞	第23週	ボールを使った運動あそび		
	第9週	作品の創作(1)	第24週	ボールを使った運動あそび		
	第10週	作品の創作(2)	第25週	生活用品を使った運動あそび		
	第11週	作品の創作(3)	第26週	生活用品を使った運動あそび		
	第12週	作品の創作とまとめ(4)	第27週	マットを使った運動あそび		
	第13週	作品発表会	第28週	マットを使った運動あそび		
	第14週	作品発表ビデオ鑑賞	第29週	リズムカルな運動あそび		
	第15週	まとめ	第30週	まとめ		
指導方法 履修上の 注 意	<p>授業内容を記録用紙に記入する。</p> <p><b>出席重視。</b></p> <p><b>体操着</b>を着用のこと。</p> <p><b>運動靴</b>をはき、裸足、スリッパ履きでは、受講しないこと。</p> <p><b>意欲、関心</b>、はプラスポイントとする。</p>					
成績評価の方法	レポート(50%)、課題(20%)、授業態度(30%)					
教科書	『子どもの運動・表現遊び ~動きを通して育む心とからだ~』(宮下恭子他、大学図書出版)					
参考文献	『保育と幼児期の運動あそび』(岩崎洋子編、萌文書林)					

授業科目	子どもの保健		単位数	4	担当教員	石田 徹
講義のねらいと概要	<p>小児の成長・発達過程を正しく把握した上で身体的・社会的・心理的な健康を保持・増進するために、保育現場において要求される小児保健上の知識について学習する。保育者の初期対応が、乳幼児の将来の健康に関わる重要な意味をもつことを理解し、専門職として正しく健康管理が実践できるようになることを目標とする。</p> <p>本科目の到達目標は、子どもに関わる専門職として必要な保健の知識を習得し、日常の保育現場における健康の保持・増進および健康問題に対する適切な対応が理解できることである。</p>					
授業計画	第1週	子どもにとっての健康と小児保健の意義	第16週	小児期の病気の特徴		
	第2週	小児保健の諸統計からみる小児の健康問題：人口動態と母子保健統計	第17週	小児期の病気と家族支援		
	第3週	小児保健の諸統計からみる小児の健康問題：小児期に関する統計	第18週	小児の健康問題と看護：感染症		
	第4週	小児の発育・発達と評価：身体発育	第19週	小児の健康問題と看護：予防接種		
	第5週	小児の発育・発達と評価：体温、呼吸、循環	第20週	小児の健康問題と看護：呼吸器・循環器疾患		
	第6週	小児の発育・発達と評価：排泄、睡眠等	第21週	小児の健康問題と看護：アレルギー疾患		
	第7週	小児の発育・発達と評価：脳神経系の発育	第22週	小児の健康問題と看護：消化器疾患		
	第8週	小児の発育・発達と評価：運動機能の発育	第23週	小児の健康問題と看護：外傷		
	第9週	小児の発育・発達と評価：感覚機能の発育	第24週	小児の健康問題と看護：精神疾患		
	第10週	小児の発育・発達と評価：言語・情緒の発育	第25週	小児の健康問題と看護：その他の疾患		
	第11週	小児の発育・発達と評価：社会性の発育等	第26週	主な症状と看護（発熱、下痢、嘔吐、痙攣等）		
	第12週	小児の発育・発達と評価のまとめ	第27週	集団保育と安全管理		
	第13週	小児の栄養と健康：歯の発育と健康管理	第28週	子どもの精神保健		
	第14週	小児の栄養と健康：乳幼児の栄養と保育	第29週	乳幼児精神保健：愛着、虐待		
	第15週	前期試験と前期のまとめ	第30週	後期試験と後期のまとめ		
指導方法 履修上の 注意	<p>意欲的に授業に参加し、質問等があったときは積極的に質問をすること。</p> <p>授業中には、積極的にノートテイキングを行うこと。</p> <p>常に、子どもの保健に関するニュース等に関心を向けること。</p>					
成績評価の方法	筆記試験（50％）、課題（30％）、授業態度（20％）					
教科書	『これだけはおさえない！保育者のための子どもの保健』（鈴木美枝子 編著、創成社）					
参考文献	参考文献等に関しては、授業の中で適時紹介する。					



授業科目	子どもの保健		単位数	4	担当教員	両角理恵
講義のねらいと概要	<p>保育者に必要とされる、子どもの保育保健の基礎知識の習得を目的とする。前期では、乳幼児期の成長・発達及び子どもの心と身体の特性についての理解を深め、子どもが心身ともに健全に育っていけるように援助や健康増進に携わるための基本となる知識の理解を深める。心の健康の特性・援助については、園で気になる子どもとし、より具体的な知識の習得を目指す。後期では、前期で学んだ知識を基礎とし、子どもが罹りやすい病気、感染予防、園でおこりやすい事故、母子保健等について学ぶ。</p>					
授業計画	第1週	子どもの健康と保健の意義	第16週	子どもの健康状態の把握		
	第2週	子どもの身体発育	第17週	体調のよくない子どもへの対応		
	第3週	子どもの身体発育	第18週	子どものかかりやすい病気		
	第4週	子どもの運動機能の発達	第19週	感染の予防		
	第5週	子どもの運動機能の発達	第20週	子どものかかりやすい病気		
	第6週	子どもの生理機能の発達	第21週	子どものかかりやすい病気		
	第7週	子どもの生理機能の発達	第22週	子どものかかりやすい病気		
	第8週	子どもの生理機能の発達	第23週	子どものかかりやすい病気		
	第9週	子どもの感覚器の発達	第24週	子どものかかりやすい病気		
	第10週	子どもの感覚器の発達	第25週	子どものかかりやすい病気		
	第11週	子どもの精神機能の発達	第26週	子どもの事故		
	第12週	子どもの精神機能の発達	第27週	子どもの事故		
	第13週	子どもの心の健康	第28週	保育環境		
	第14週	子どもの食と栄養	第29週	母子保健と保育		
	第15週	まとめ・テスト	第30週	まとめ・テスト		
指導方法 履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テキストを中心に、資料、ワークシート、視聴覚教材等も使用して講義を行う。</li> <li>・配布されたプリント類は、ノートに貼る、ファイリングするなど各自で整理しておくこと。</li> <li>・授業中の私語、飲食、携帯電話は禁止。</li> </ul>					
成績評価の方法	筆記試験（70％）、授業態度（10％）、レポート（20％）					
教科書	『これだけはおさえない！保育者のための子どもの保健』（鈴木美枝子編著：創世社）					
参考文献	随時、資料を配布する。					

授業科目	社 会 福 祉	単位数	2	担当教員	野 島 正 剛
講義のねらいと概要	<p>本科目は、社会福祉の専門職である保育士に必要な知識として、また我が国に生きる社会人として、社会福祉の果たす役割について学ぶものである。到達目標は以下の5項目の理解である。1. 現代社会における社会福祉の意義と歴史の変遷。2. 社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性。3. 社会福祉の制度や実施体系。4. 社会福祉における相談援助や利用者の保護にかかわる仕組み。5. 社会福祉の動向と課題。</p>				
授業計画	第1週	保育と社会福祉			
	第2週	社会福祉の道すじ			
	第3週	社会福祉の意味と考え方			
	第4週	社会福祉の実施体制と財源			
	第5週	暮らしを支える社会保障制度			
	第6週	前半のまとめ			
	第7週	子どもと家族の福祉			
	第8週	障害のある人の福祉			
	第9週	高齢者の福祉			
	第10週	地域福祉			
	第11週	社会福祉の専門職と倫理			
	第12週	保育士とソーシャルワーク			
	第13週	利用者の権利擁護，社会福祉の動向と課題			
	第14週	後半のまとめ			
	第15週	総括と試験			
指導方法履修上の注意	<p>第6週には前半のまとめ，第14週には後半のまとめを行い，理解を確実なものにする。その際，授業内で課題を課す。授業態度として，授業内で確認のための振り返りシートの記入を行う。社会福祉はこれから社会に出る皆さんの生活に直結するものである。常に自分の問題として考えながら授業を受けて欲しい。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（60％）、課題（20％）、授業態度（20％）				
教科書	『六訂 保育士をめざす人の社会福祉』（相澤譲治・編、みらい）				
参考文献	『保育福祉小六法』（保育福祉小六法編集委員会・編、みらい）				

授業科目	児童家庭福祉	単位数	2	担当教員	志濃原 亜美
講義のねらいと概要	<p>児童家庭福祉の歴史の変遷と現代社会における児童家庭福祉の意義を理解する。そのうえで、児童家庭福祉の制度や実施体系など具体的なことを学ぶ。</p> <p>また、少子化・母子保健・児童虐待・社会的養護・障害のある児童の対応などをはじめとする児童家庭福祉の現状と課題について理解し、特に児童家庭福祉と保育の関連性や児童の権利擁護などについて理解を深める。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション			
	第2週	児童家庭福祉の理念と概念			
	第3週	編第社会と児童家庭福祉			
	第4週	児童家庭福祉の歴史の変遷			
	第5週	児童家庭福祉のと保育			
	第6週	児童家庭福祉の制度			
	第7週	児童家庭福祉の法体系			
	第8週	児童家庭福祉と児童福祉施設等			
	第9週	少子化と子育て支援サービス			
	第10週	児童虐待・ドメスティックバイオレンス1			
	第11週	児童虐待・ドメスティックバイオレンス2			
	第12週	障害のある児童への対応			
	第13週	次世代育成支援と児童家庭福祉の推進			
	第14週	諸外国の動向			
	第15週	定期試験			
指導方法履修上の注意	<p>普段から新聞・ニュースその他のメディアを通して児童家庭福祉の問題や課題について関心をもつこと。</p>				
成績評価の方法	<p>筆記試験（60％）、レポート（20％）、課題（10％）、授業態度（10％）</p>				
教科書	<p>『新 保育ライブラリ 児童家庭福祉』（北大路書房）</p>				
参考文献	<p>『最新保育資料集 2013』（ミネルヴァ書房）</p> <p>参考文献は適宜紹介する</p>				

授業科目	児童家庭福祉	単位数	2	担当教員	野島正剛
講義のねらいと概要	<p>本科目は授業科目「社会福祉」を踏まえ、その1領域であり、保育士が活躍する領域である「児童家庭福祉」が果たす役割について学ぶものである。到達目標は以下の5項目の理解である。1. 現代社会における児童家庭福祉の意義と歴史の変遷。2. 児童家庭福祉と保育との関連性及び児童の人権。3. 児童家庭福祉の制度や実施体系。4. 児童家庭福祉の現状と課題。5. 児童家庭福祉の動向と展望。</p>				
授業計画	第1週	児童家庭福祉とは			
	第2週	多様なニーズと保育問題			
	第3週	子どもの養護問題と虐待防止			
	第4週	障害のある子どもの問題			
	第5週	子どもの行動に関する問題			
	第6週	児童家庭福祉の歴史			
	第7週	前半のまとめ			
	第8週	児童家庭福祉の制度と法体系			
	第9週	児童家庭福祉行政と実施機関、施設			
	第10週	世界の児童家庭福祉			
	第11週	児童家庭福祉の専門職			
	第12週	児童家庭福祉の方法論と専門機関との連携			
	第13週	児童家庭福祉の課題と展望			
	第14週	後半のまとめ			
	第15週	総括と試験			
指導方法履修上の注意	<p>第6週には前半のまとめ、第14週には後半のまとめを行い、理解を確かなものにする。その際、授業内で課題を課す。授業態度として、授業内で確認のための振り返りシートの記入を行う。児童家庭福祉は子どもにかかわる仕事をする人に必要となる知識である。常に自分と子どもの問題として考えながら授業を受けて欲しい。</p>				
成績評価の方法	筆記試験(60%)、課題(20%)、授業態度(20%)				
教科書	『子どもの福祉 - 児童家庭福祉のしくみと実践 - 』(松本峰雄・編著、建帛社)				
参考文献	『保育福祉小六法』(保育福祉小六法編集委員会・編、みらい)				

授業科目	音楽（１）ピアノ		単位数	2	担当教員	田口雅夫・大平五百子他
講義のねらいと概要	この授業では、幼児教育または保育の現場で必要となる基本的なピアノの演奏技術と表現力を習得します。					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	曲目番号 15～17		
	第2週	曲目番号 1	第17週	" 18～20（童謡テキスト併用）		
	第3週	" 2	第18週	" 21～23		
	第4週	" 3	第19週	" 24～26		
	第5週	" 4	第20週	" 27～29		
	第6週	" 5	第21週	" 30～32		
	第7週	" 6	第22週	" 33～35		
	第8週	" 7	第23週	" 36～38		
	第9週	" 8	第24週	" 39～41		
	第10週	" 9	第25週	" 42～44		
	第11週	" 10	第26週	" 45～48		
	第12週	" 11	第27週	追加曲 1		
	第13週	" 12	第28週	追加曲 2, 3		
	第14週	" 13	第29週	追加曲 4, 5		
	第15週	" 14	第30週	テスト		
指導方法 履修上の 注意	個人レッスンが原則である。与えられた課題を次のレッスンまでに十分練習しておくこと。学生の進度に応じて後期は童謡曲集を併用する。1年間で終了不可な学生は2年次に残りを続けて履修する。					
成績評価の方法	学年末実技試験（50％）、日常レッスンにおける取り組み（50％）					
教科書	『ピアノ教則本』～短期間で童謡を弾くための～（カワイ出版） 『実用こどものうた』（田口・高崎編、カワイ出版）					
参考文献	授業内で指示					

授業科目	音楽（２）ピアノ		単位数	2	担当教員	田口雅夫 他
講義のねらいと概要	音楽（１）ピアノで習得したピアノの基本奏法の上に、更に高度な演奏技術と応用力を身につけます。授業では、童謡をはじめ保育の現場で役に立つレパートリーを学びます。また、コードネームの学習を通して歌や合奏のピアノ伴奏が余裕を持ってできるよう、『実用こどものうた』をベースに授業を進めていきます。					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	『実用こどものうた』 p 42～71		
	第2週	『実用こどものうた』 p 8～39	第17週	”		
	第3週	”	第18週	”		
	第4週	”	第19週	”		
	第5週	”	第20週	”		
	第6週	”	第21週	”		
	第7週	”	第22週	”		
	第8週	”	第23週	”		
	第9週	”	第24週	”		
	第10週	”	第25週	”		
	第11週	”	第26週	”		
	第12週	”	第27週	”		
	第13週	”	第28週	”		
	第14週	”	第29週	”		
	第15週	テスト	第30週	テスト		
指導方法履修上の注意	電子キーボードでの演習が中心となるため、毎日の練習の積み重ねが上達のポイントとなります。コードネーム等に関する参考文献は、その場に応じてサブテキストとしてコピーを配布します。					
成績評価の方法	学期末と学年末の実技試験（50％）、日常の授業における演奏（30％）、進捗及び学習曲数（20％）					
教科書	『実用こどものうた』（田口・高崎編、カワイ出版）					
参考文献	授業内で指示					

授業科目	国語教育	単位数	2	担当教員	秋山智美
講義のねらいと概要	<p>幼児のことばの能力や想像力、情緒や道徳といったものは初等国語教育で培われる。近年、国語力が低下しているといわれているが、幼児期から国語に触れる機会をできるだけ多く作ることが大切である。よって、保育に携わる者は幼児に対して適切な方法で、自然と国語力が身につくように支援することが重要である。</p> <p>本講義では、具体的な事例を挙げてどのように幼児に国語教育をすべきか、またどのような支援が望ましいか考える。加えて、小学校国語教育についても触れる。</p>				
授業計画	第1週	指導の実際			
	第2週	指導の実際			
	第3週	指導の実際			
	第4週	教材研究 (班決めと予定)			
	第5週	教材研究 (制作)			
	第6週	教材研究 (制作)			
	第7週	教材研究 (制作)			
	第8週	教材研究 (発表)			
	第9週	教材研究 (発表)			
	第10週	教材研究 (発表)			
	第11週	教材研究 (発表)			
	第12週	映像教育 - 民話や伝承に親しむ			
	第13週	書くこと、読むことの指導 - 小学校学習指導要領から			
	第14週	事例研究			
	第15週	まとめ			
指導方法履修上の注意	講義と教材研究(絵本や紙芝居の制作)をおこなう。				
成績評価の方法	課題の制作と発表(60%)、授業態度(40%)				
教科書	『小学校学習指導要領』(文部科学省、財務省印刷局)				
参考文献	授業内で必要に応じて紹介する。				

授業科目	数	量	教	育	単位数	2	担当教員	中 村 陽 一
講義のねらいと概要	<p>幼児の数量や図形に対する興味や関心・感覚は、日常生活での環境とのかかわりの中で、さまざまな体験を通じて発達する。従って保育者は、幼児が生活体験の中から無理なく自発的に、数量や図形に対する感覚が身につくように適切な援助をすることが大切である。</p> <p>本講ではこのような観点から、具体的事例をもとに、幼児の興味、関心を引き出す環境設定の在り方と、援助の仕方について考えていく。さらに小学校学習指導要領と、小学校算数科の概要についても学ぶ。</p>							
授業計画	第1週	幼稚園教育要領に示されている数量・図形の取り扱い						
	第2週	人間は数をどのように認識していたか						
	第3週	幼児の日常生活と数量認識						
	第4週	幼児が日常で使う数について ～個数・順序数～						
	第5週	幼児が日常で使う数について ～連続数・比較数・記号数～						
	第6週	数と遊びの事例研究 3歳児						
	第7週	数と遊びの事例研究 4歳児						
	第8週	数と遊びの事例研究 5歳児						
	第9週	小学校算数科学習指導要領の概要						
	第10週	小学校算数科の概要 第1学年						
	第11週	小学校算数科の概要 第2学年						
	第12週	小学校算数科の概要 第3学年						
	第13週	小学校算数科の概要 第4学年						
	第14週	小学校算数科の概要 第5学年						
	第15週	小学校算数科の概要 第6学年						
指導方法 履修上の 注 意	講義を主とするが、必要に応じてビデオ教材や写真等を用いる。「自分ならどうするか」という問題意識を持って授業に臨むことが大切。							
成績評価の 方 法	期末試験（70％）、小テスト（30％）							
教 科 書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針（原本）』（文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館） 『小学校学習指導要領』（文部科学省、財務省印刷局）							
参 考 文 献	授業中に紹介する。							



授業科目	子どもの食と栄養	単位数	2	担当教員	平山素子・堀美稚
講義のねらいと概要	<p>子どもを取り巻く食環境を把握し、胎児期から思春期における心身の発育発達と栄養・食事との関係を理解する。実習を通して、子ども一人ひとりの食に対する心理状態や摂取状況を観察し、適切な食事の提供と介助、さらには食生活のあり方について援助できる力を身につけることを目的とする。</p> <p>授業を通して、自身の望ましい食生活の構築にも取り組んで欲しい。</p>				
授業計画	第1週	食べることの意義と栄養・食品の知識			
	第2週	子どもの発育と栄養			
	第3週	乳児期の栄養と食生活 a. 授乳期の栄養と食生活			
	第4週	調理の基本、調乳	・ ・	調理実習 1	
	第5週	b. 離乳期の栄養と食生活	離乳期の特徴と進め方	(5,6 か月頃、7,8 か月頃)	
	第6週	〃	・ ・	調理実習 2	
	第7週	〃	離乳期の特徴と進め方	(9-11 か月頃、12-18 か月頃)	
	第8週	〃	・ ・	調理実習 3	
	第9週	幼児期の栄養と食生活			
	第10週	お弁当、間食	・ ・	調理実習 4	
	第11週	行事食	・ ・	調理実習 5	
	第12週	児童福祉施設の栄養と食生活			
	第13週	障害をもつ子どもの栄養と食生活			
	第14週	学童期(思春期)の栄養と食生活			
	第15週	妊娠・授乳期の栄養と食生活			
指導方法 履修上の 注意	<p>講義：教科書・配布資料に基づき、視聴覚教材も取り入れて授業を行う。</p> <p>実習：デモンストレーションを行った後、班毎に実習を行う。</p>				
成績評価の 方法	レポート、筆記試験(60%)、授業態度(40%)				
教科書	『子どもの食と栄養』(岡崎光子 編、光生館)				
参考文献	<p>『子どもの食事』(根岸宏邦 著、中央公論新社)</p> <p>『新版 子どもの食生活-栄養・食育・保育-』(上田玲子 編、ななみ書房)</p>				

授業科目	食 教 育 論	単位数	2	担当教員	平 山 素 子
講義のねらいと概要	<p>食育基本法が施行され、保育園、幼稚園においても積極的に食教育を行うことが求められている。食の営みは生きる力であり、人間だけが発展させてきた文化の伝承そのものである。しかし、昨今では、飽食の時代から崩食の時代へと拍車がかかったように、さまざまな食事場面で我々の生活に変化がもたらされた。このような環境の中で、子どもの食生活をいかに健康的に演出するのは、まさに大人の意識にかかっていると見える。そこで、子供たちに「食とは何か」という基本的な知識と、食べることが人間の心とからだを作るということを伝える手段について学ぶ。</p>				
授業計画	第1週	食教育の目的と必要性			
	第2週	食教育の方法			
	第3週	小児期の食をめぐる問題を考える	1.食物アレルギー		
	第4週		2.欠食		
	第5週		3.孤食		
	第6週		4.食習慣		
	第7週		5.歯磨きと虫歯		
	第8週		6.咀嚼く		
	第9週	子どもの発達に即した食教育を考える	1.食のマナー		
	第10週		2.食と栄養の知識		
	第11週		3.偏食		
	第12週		4.調理保育		
	第13週	保護者への啓発の方法			
	第14週	媒体作成 - 給食便り			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の 注 意	<p>配布資料を用いた授業とともに、食教育教材としての媒体作成等を行う。 授業の中で随時ディスカッションを行うので、積極的に参加して欲しい。</p>				
成績評価の 方 法	課題（60%）、授業態度（40%）				
教 科 書	随時、資料を配布する。				
参 考 文 献	『子どもの食事』（根岸宏邦著、中央公論新社） 他、適宜紹介する。				

授業科目	子どもの保健	単位数	1	担当教員	両角理恵
講義のねらいと概要	<p>小児期は発育・発達の著しい時期であるため、日々の保育や栄養のあり方が子どもの心身の健康に大きな影響を与える。子どもの保健 で学んだ理論や知識をもとに、実際の保育現場や家庭での育児や看護に必要な実践的技術の習得を行い、保育者の重要な資質である子どもの心身の健康状態を判断できる力の育成をめざしたい。また不慮の事故や子どもの緊急症状に対する対処方法、応急手当、健康教育などの実践能力も養いたい。さらに子どもだけではなく、保育者自身の健康管理についても配慮できる力を身につける。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション、演習準備			
	第2週	子どもの発育・発達の観察と評価			
	第3週	子どもの発育・発達の観察と評価			
	第4週	子どもの養護と教育（だっこ・おんぶ）			
	第5週	子どもの養護と教育（排泄）			
	第6週	子どもの養護と教育（衣服の着脱・沐浴）			
	第7週	子どもの生活習慣（睡眠・排泄）			
	第8週	子どもの生活習慣（清潔と健康教育）			
	第9週	子どもの心と体の健康づくりのために			
	第10週	体調不良の子どもへの対応			
	第11週	体調不良の子どもへの対応			
	第12週	体調不良の子どもへの対応			
	第13週	子どもと薬、個別の配慮が必要な子どもへの援助			
	第14週	園での安全対策と望ましい保育環境・保育における応急手当			
	第15週	まとめ・テスト			
指導方法 履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義、実習、グループワークを行う。</li> <li>・筆記用具、提示された教材は持参すること。</li> <li>・実習は動きやすい服装、エプロン着用で出席し、スリッパ、サンダルは禁止する。</li> <li>・グループ内で協力し、全員が積極的に実習に取り組むこと。</li> <li>・授業中の私語、飲食、携帯電話は禁止。</li> </ul>				
成績評価の 方法	筆記試験（50％）、レポート（25％）、実技（10％）、授業態度（15％）				
教科書	『これだけはおさえたい！保育者のための子どもの保健』（鈴木美枝子編著：創世社）				
参考文献	随時、資料を配布する。				

授業科目	家庭支援論	単位数	2	担当教員	丸山 アヤ子
講義のねらいと概要	<p>本科目では、家庭支援における保育者の役割を明確にする。個々の子どもを家庭ごとに理解してその福祉を保障するため、ニーズに応じた支援のできる保育者としての能力を身に付けることを目的とする。現代社会では、家庭・家族のあり方が大きく変化し、地域における子育て力が弱くなった。そこで、地域での子育て支援の必要性が高くなり、保育所・幼稚園・児童福祉施設の役割がより重要になってきた。保護者・家庭・地域・他機関との連携を保ち、家庭支援のできる保育者を養成する。様々な事例を基に、「子育て支援」の具体的な援助の方法と技術を修得する。</p>				
授業計画	第1週	家庭支援における保育者の役割			
	第2週	家庭支援の意義と役割			
	第3週	地域社会の変容と家庭支援			
	第4週	子育て支援サービスの種類と役割			
	第5週	保育所入所児童の家庭への支援			
	第6週	家庭支援の基本的姿勢と援助技術			
	第7週	子育て相談事例への対応(ロールプレイ)			
	第8週	ひとり親家庭・発達障害児を持つ子ども家庭への理解と対応、援助			
	第9週	子ども虐待への理解と対応、援助			
	第10週	子育て支援活動の実際を企画する			
	第11週	プログラム型子育て支援サービスの実際：準備(グループワーク)			
	第12週	プログラム型子育て支援サービスの実際(発表)			
	第13週	プログラム型子育て支援サービスの実際(発表)			
	第14週	相談事例研究および試験			
	第15週	これまでのまとめ：保育者としての家庭支援			
指導方法履修上の注意	<p>本授業では、家庭支援の在り方を講義するとともに、ソーシャルワーク機能をもつ保育者としての能力を高めるため、ロールプレイ・グループワークを用いた具体的支援方法を指導する。したがって、以下のことが重要である。</p> <p>自ら調べ、研究する姿勢をもって授業に参加すること。</p> <p>グループワークでは、それぞれの役割を尊重し、グループ全員で協力し合うこと。</p>				
成績評価の方法	筆記試験(30%)、レポート(30%)、課題(40%)				
教科書	『家庭支援論』(編著：溝口元・寺田清美、出版社：アイケイコーポレーション)				
参考文献					

授業科目	相 談 援 助	単位数	1	担当教員	小 室 泰 治
講義のねらいと概要	<p>社会生活を営む上で生活上に困難や問題を抱えている人にたいして、その環境の改善を図り、その人が抱えている問題や課題を、自身が主体的に解決できるよう支援していくことが相談援助の目的であることを学ぶ。また、それらをロールプレイやグループワークの技法を用い、事例を通して体験的に学んでいく。</p>				
授業計画	第1週	相談援助とは何かについて理解する。 保育実践の中でなぜ相談援助が必要になったのかを理解する。			
	第2週	相談援助の理論と歴史的な流れを学ぶ。 相談援助の定義と原理を理解する。			
	第3週	相談援助の基本基本的枠組みについて理解する。 相談援助には、直接援助技術、間接援助技術等があることを学ぶ。			
	第4週	相談援助の価値や理念について理解する。 バリエーションの援助関係における7つの原則を学ぶ。			
	第5週	相談援助の援助過程について理解する。 面接の開始から問題解決の終結までの過程を習得する。			
	第6週	相談援助を行ううえでの倫理の必要性を学ぶ。 専門職としての倫理綱領を理解する。			
	第7週	保育現場における直接援助技術の実際について学ぶ。 保育現場での面接やグループワークの方法について事例をとおして修得する。			
	第8週	保育所におけるコミュニティワークのあり方について学ぶ。 地域に根ざした保育所のあり方を探求する。			
	第9週	地域社会資源について学ぶ。 事例研究 グループワーク			
	第10週	事例研究 グループワーク			
	第11週	事例研究 グループワーク			
	第12週	事例研究 グループワーク			
	第13週	スーパービジョンについて学ぶ。 スーパービジョンには3つの機能があることを理解する。			
	第14週	相談援助における今後の課題 まとめ			
	第15週	試験およびまとめ			
指導方法 履修上の 注 意	<p>テキストを基本にし、前半は講義をもとに個別援助技術（ケースワーク） 集団援助技術（グループワーク）やロールプレイ等援助実践に必要な事項を体験しながら学ぶ。後半はKJ法やブレインストーミング等の技法を活用し、事例をとおして具体的な援助の在り方を習得するので、積極的な参加と発言ができるよう心掛けること。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（50%）、レポート（20%）、課題（20%）、発表（10%）				
教 科 書	『保育者のための社会福祉援助技術』（桐野由美子、樹村房）				
参 考 文 献	適宜プリントを配布する。				

授業科目	相 談 援 助	単位数	1	担当教員	齋 藤 新 一
講義のねらいと概要	相談援助を行なう上で必要なソーシャルワーク(ケースワーク・グループワーク)について学ぶ。具体的には、保育とソーシャルワークのかかわり、対人援助の方向性を示す価値、クライアントとの援助関係の形成を図るバイスティックの7原則、相談援助の各展開過程の内容、相談援助面接方法(ロールプレイ)、グループの人と人との相互作用の働きによって個人の課題解決を図るグループワーク、総合的事例分析により実践的相談援助の実際等について学習していく。				
授業計画	第1週	ガイダンス 相談援助の意義と機能、価値			
	第2週	相談援助とソーシャルワーク ソーシャルワークと保育			
	第3週	相談援助の原理			
	第4週	相談援助の理論			
	第5週	個別援助技術の定義と原則			
	第6週	個別援助技術の定義と原則			
	第7週	個別援助技術の定義と原則			
	第8週	個別援助技術の展開過程			
	第9週	相談援助面接技法			
	第10週	演習:相談援助面接技法の実際(ロールプレイ)			
	第11週	演習:総合的事例分析(母子家庭への援助)			
	第12週	集団援助技術の定義と原理・原則			
	第13週	集団援助技術の構成要素と展開過程			
	第14週	社会資源としての関係機関との連携			
	第15週	試験およびまとめ			
指導方法 履修上の 注 意	保育士としての相談援助業務を行なう上で、必要不可欠な専門的知識と技術です。対象者に、より良い支援が行えるようにしっかり身につけてください。授業内容の理解度について、各授業内でレポート提出があります。このレポートは成績評価の対象となりますので、欠席には十分注意してください。				
成績評価の 方 法	筆記試験(40%)、各授業内レポート(40%)、学ぼうとする授業態度(20%)				
教科書					
参考文献	『相談援助』(小林育子他2名、萌文書林) 『演習・保育と相談援助』(監修:前田敏雄、編集:佐藤伸隆・中西遍彦、みらい)、その他の文献・資料等を参考・引用とする場合はその都度紹介していきます。				



授業科目	保 育 相 談 支 援	単位数	1	担当教員	齋 藤 新 一
講義のねらいと概要	<p>保育士は児童の保育のみでなく、児童の保護者支援も業務となっている。保育相談支援とはどのようなものか、何故、保育相談支援が必要なのか、保育相談支援はどのような技術を用いて、またどのように展開して行なっていくのか。保育相談支援の援助内容と方法、及び支援を行った後の自分たちの保護者支援の効果測定・評価方法についても事例を通して学習していく。</p>				
授業計画	第1週	ガイダンス 保護者に対する保育相談支援の意義と原則			
	第2週	保育士の業務と保育相談支援			
	第3週	保育と保育相談支援の相互関連性 保育相談支援の限界 保育相談支援の展開過程			
	第4週	保育相談支援の基本(子どもの最善の利益・子どもの成長とともに喜ぶ共感・保護者の養育力の向上等)			
	第5週	保育相談支援の場面と手段			
	第6週	保育相談支援の実際1(演習:保育相談支援の方法と技術)			
	第7週	保育相談支援の実際2(演習:保育相談支援の方法と技術)			
	第8週	保育相談支援の実際3(演習:保育相談支援の方法と技術)			
	第9週	保育相談支援の実際4(演習:環境を通じた保育相談支援)			
	第10週	保育相談支援の実際5(演習:記録技法)			
	第11週	保育相談支援の実際6(演習:記録技法)			
	第12週	保育相談支援の実際7(演習:評価方法)			
	第13週	児童福祉施設における保育相談支援の実際(演習)			
	第14週	カンファレンスの意義と方法			
	第15週	試験およびまとめ			
指導方法 履修上の 注 意	<p>授業はグループ討議により進めていく予定です。各学生の積極的なグループ討議参加を求めるとともに、その授業内容の理解度について、各授業内でレポート提出があります。このレポートは成績評価の対象となりますので、欠席には十分注意してください。</p>				
成績評価の 方 法	<p>筆記試験(40%)、各授業内レポート(40%)、学ぼうとする授業態度(20%)</p>				
教 科 書					
参 考 文 献	<p>『保育相談支援』(柏女霊峰・橋本真紀、ミネルヴァ書房)、『保育相談支援』(小林育子、萌文書林)、『保育所における家庭支援』(金子恵美、全国社会福祉協議会)、『保育所保育指針解説書』(ひかりのくに)、その他の文献・資料等を参考・引用とする場合はその都度紹介していきます。</p>				



授業科目	教 育 原 理	単位数	2	担当教員	松 木 久 子
講義のねらいと概要	<p>教育や学校を単純に事象的そして経験的にのみとらえるのではなく、より本質的に「教育」や「学校」を理解するために必要な基礎的知識や考え方を習得することを基本的なねらいとします。また、教職を志す学生のみなさんが、進んで自分なりの教育観を形成し、これからの未来を展望する教育のあり方、さらに教育改革の方向性についても主体的に考えていくきっかけを提供することを目的とします。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション：講義の受け方と諸注意			
	第2週	教育を受けられることは普通のことか			
	第3週	教育とは何か：教育の語義			
	第4週	教育とは何か：教育の意義			
	第5週	人間の特質：教育の可能性と限界			
	第6週	教育の歴史：学校の誕生とその歩み			
	第7週	近代学校の成立と性格：誰もが通える学校とは			
	第8週	教育制度：学校制度の発達			
	第9週	教育制度：戦後における改革の動向			
	第10週	幼稚園と保育所の誕生			
	第11週	幼稚園と保育所の歩み			
	第12週	教育の内容と方法			
	第13週	教育の評価：意義と方法			
	第14週	教育の経営：学級経営、学校経営			
	第15週	試験およびこれまでのまとめ			
指導方法 履修上の 注 意	<p>教育を受けられることは普通のことなのか等、今まで常識とってきたことを、大いに疑ってほしいと思います。また、子どもを取り巻く環境について考えを深めるために、日々ニュースや新聞に接するようにしてください。また専門用語などについて、図書館を利用するなどして、積極的そして主体的に学ぶ態度をもってほしいと思います。特に、文字の読み書きには十分に慣れる必要があります。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（50%）、レポート（25%）、授業態度（25%）				
教 科 書	保育者養成シリーズ『教育原理』				
参 考 文 献	授業中に必要に応じて紹介します。				

授業科目	保 育 原 理	単位数	2	担当教員	金村 美千子
講義のねらいと概要	乳幼児期は、人間形成の基礎を培う重要な時期である。子どもの健全な心身の発達を図るためには、子どもへの愛情だけでは不十分であって、専門的な知識や技術を身につけた保育者が、正しい保育観のもとに、子どもの発達段階にふさわしい環境構成をするとともに、子ども一人一人の特性に応じた指導をしなければならない。そのために、この講義では、保育者になるための学習の第一歩として、保育に関する総合的な学習をすることによって、保育についての基本的な知識や考え方を身につけることを目標とする。				
授業計画	第1週	幼稚園と保育所の制度			
	第2週	保育者の一日			
	第3週	保育とは何か			
	第4週	幼稚園教育			
	第5週	保育所保育			
	第6週	認定こども園			
	第7週	保育内容			
	第8週	教育課程・保育課程			
	第9週	指導計画			
	第10週	保育形態(1)自由保育・一斉保育・設定保育			
	第11週	保育形態(2)年齢別保育・縦割り保育・混合保育・統合保育			
	第12週	外国における保育の歴史			
	第13週	日本における保育の歴史			
	第14週	保育の現状と課題			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法 履修上の 注 意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 風邪を引いているときには、必ずマスクをすること。</li> <li>2. オープンキャンパス等で教室変更があると授業内容の変更をする場合がある。</li> <li>3. 学生の私語は、授業を進めるうえで教師にとっても勉学熱心な学生にとっても迷惑である。学生は、このことをしっかり頭に入れて授業に出てもらいたい。</li> </ol>				
成績評価の 方 法	筆記試験(100%) 筆記試験で50点未満の場合には、毎授業時に提出された「授業のまとめ」を評価して10点以下の範囲で加点する。				
教 科 書	『保育原理 保育者になるための基本』(金村美千子編、同文書院)				
参 考 文 献					

授業科目	教 育 心 理 学	単位数	2	担当教員	大 谷 智 子
講義のねらいと概要	<p>幼児教育において、人間の“記憶や学習のメカニズム”について理解を深めることは重要である。ここでは、こどもの発達、記憶と学習、動機づけ等いくつかの領域に焦点を絞り、保育の現場において重要な教育心理学の基礎的知識を習得することを目的とする。この講義をきっかけに、各人が教育方法や幼児に対する理解・考え方を深めてもらいたい。</p>				
授業計画	第1週	ガイダンス、導入 担当講師の自己紹介と講義の進め方、なぜ教育心理学を学ぶ必要があるのかについて解説する。			
	第2週	こどもの発達とは 各発達段階の特徴およびピアジェの認知発達理論、ピゴツキーの発達の最近接領域について学ぶ。			
	第3週	こどもの心の理解 「こころ」とは何か。愛着、こころの理論を通して考える。			
	第4週	気づくこと 視覚的注意とは何か、どういうメカニズムで人は注意を向けるのか。保育の視点から注意について考える。			
	第5週	覚えること 記憶のしくみについて概観する。身近な例や簡単な記憶実験を通じ、記憶の種類について学ぶ。			
	第6週	忘れること なぜ忘却が起こるのか、記憶と忘却のメカニズムについて学ぶ。また、健忘症などの症状について触れる。			
	第7週	学ぶこと 記憶の側面から、どうすれば記憶し続けられるか考える。			
	第8週	教えること 心理学における学習について学ぶとともに、行動の側面から、学習の方法について考える。			
	第9週	やる気のメカニズム、やる気はどうやって高まるのか 動機づけについて説明し、どうすればやる気を育むことができるのか考える。			
	第10週	問題解決をすること 学習分野における問題の解決方法について学ぶ。			
	第11週	こどもを取り巻く人間関係 仲間関係を通じて養われる社会性や道徳性について学ぶ。			
	第12週	学級集団 学級集団における行動や発生しやすい問題について学び、よりよい学級作りについて考える。			
	第13週	個人差とは 知能やパーソナリティについて学ぶ。			
	第14週	教育評価 学力の測定と評価について学び、評価の多様性についても考える。			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法 履修上の 注 意	授業毎に考えたことを小レポート（課題）として書いてもらう予定である。				
成績評価の 方 法	筆記試験（60％）、課題（30％）、授業態度（10％）				
教 科 書	特になし。				
参 考 文 献	その都度紹介する。				

授業科目	教 育 心 理 学	単位数	2	担当教員	上原 友紀子
講義のねらいと概要	<p>本講義では、発達・認知・臨床・社会など心理学諸領域の基礎を幅広く学び、教育実践との関わりについて考えることを目的とします。各領域における古典的研究を基礎として、一見スモールステップの研究の蓄積がどのように、人間の複雑な心的処理の理解につながっていくのかということに注目しつつ講義を行っていきます。理解を深めるために、視聴覚教材やデモンストレーションなどを利用した授業を行います。</p>				
授業計画	第1週	イントロダクション：心理学とはどのような学問なのかについて知る。			
	第2週	心理学の方法論：心理学を「科学」として捉え、その方法論の特性や目的について知る。			
	第3週	知覚心理学：錯覚：錯視図形を通して、知覚の騙されやすさについて知る。			
	第4週	学習心理学：条件づけ：条件づけに関する諸理論を知り、日常経験にひきつけて考える。			
	第5週	発達心理学①：発達とは：発達という概念、及び発達段階説について知る。			
	第6週	発達心理学②：言語の発達：「言語」の発達について知る。			
	第7週	発達心理学③：道徳性の発達：「道徳性」の発達について知る。			
	第8週	発達心理学④：発達障害：発達障害について学び、その支援について考える。			
	第9週	認知心理学①：記憶：記憶及び、認知を情報処理とみなす見方について知る。			
	第10週	認知心理学②：問題解決：問題解決過程における人間の思考について学習する。			
	第11週	認知心理学③：論理的判断：人間の論理的判断、及びそれに影響を与える諸要因について知る。			
	第12週	認知心理学④：文章理解：「テキストを理解する」と「テキストの内容を理解する」の違いを知る。			
	第13週	社会心理学①：対人関係：印象形成など、日常の対人場面における社会心理学について知る。			
	第14週	社会心理学②：帰属理論：帰属に関する諸理論を知り、思考の左右されやすさについて考える。			
	第15週	試験・まとめ：これまでの講義内容の理解を問う試験、及びまとめのディスカッションを行う。			
指導方法 履修上の 注 意	<p>「心理学」という学問について具体的なイメージを持ち、自分の日常の思考や経験を心理学と結びつけて理解することを楽しんでみてください。また、講義から興味・関心を持った事柄について、自ら調べたり、またその過程で、積極的に興味関心を持つ事柄を探すこと・そこから発展的に思考を広げること・調べるテクニックを身につけることも意識してほしいと思います。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（50%）、授業態度（50%）				
教 科 書	特に設定しません。講義の中で都度、関連書籍について紹介します。				
参 考 文 献	講義の中で都度、関連書籍について紹介します。また、予習復習をしたい場合は『心理学』（鹿取廣人・杉本敏夫(編)、東京大学出版会)を参考にしてください。				

授業科目	保 育 者 論	単位数	2	担当教員	松 木 久 子
講義のねらいと概要	<p>今日、社会の急速な変化や子どもそしてその保護者の質の変化に対して、たくましく対応していける資質・能力を備えた保育者が強く求められています。幼い子どもたちにとって、保育者の存在および役割はとても大きいと言えます。本講義では、保育者として知らなければならない基本的な事柄や実習に向けての態度形成、さらに保育者が担っている役割の範囲と負っている限界、そしてその克服という問題に目を向けていきます。また、これからの社会を創造していく子どもの育成にとって、望ましい保育者の資質・能力は何かを模索していきます。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション：講義の受け方と諸注意			
	第2週	現代の子どもと学校、教師			
	第3週	保育者という仕事の実態			
	第4週	日本の教職の特質			
	第5週	指導と懲戒：進級をめぐる日本特有の問題			
	第6週	指導と懲戒：体罰をめぐる事情			
	第7週	幼稚園教諭と保育士の類似点と相違点			
	第8週	幼稚園教諭の仕事の実態(1)			
	第9週	幼稚園教諭の仕事の実態(2)			
	第10週	幼稚園教諭の仕事の実態(3)			
	第11週	教師像の変遷			
	第12週	保育者としての服務と望ましい資質			
	第13週	子どものしつけをめぐる問題(1)			
	第14週	子どものしつけをめぐる問題(2)			
	第15週	試験およびこれまでのまとめ			
指導方法履修上の注意	<p>授業形態は講義形式が中心となりますが、より具体的な幼稚園教諭・保育士としてのイメージをもつために、時折映像を活用した授業も展開します。その際には、自分自身の保育者像を創造するためにも、メモを細かく取るなど真剣に取り組んでほしいと思います。専門用語などについて図書館等を利用するなどして、積極的そして主体的に学ぶ態度を形成してください。特に、文字の読み書きについては、日常的に慣れておく必要が大いにあります。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（50％）、レポート（25％）、授業態度（25％）				
教科書	保育者養成シリーズ『教育原理』				
参考文献	授業中に必要に応じて紹介します。				

授業科目	社会的養護	単位数	2	担当教員	志濃原 亜美
講義のねらいと概要	<p>一般的に保育士の職場として考えられているのは保育園であるが、実は保育士の仕事のフィールドはかなり広い。たとえば、児童館であり、児童養護施設であり、身体障害児施設などである。つまり、児童養護に関わる仕事はすべて保育士の仕事の範疇にあるということである。「社会的養護」では、児童養護、とくに施設養護に焦点を当てて子どもに対する支援について深く学習していくことになる。また、それと同時に、施設実習の事前準備の意味合いも込められている。あるいは、実習で体験的に学んできたことを理論的に整理し、再認識することによって、理解を深めてもらうことをねらいとしている。</p>				
授業計画	第1週	子どもの社会的養護とは何か			
	第2週	子どもの権利としての社会的養護			
	第3週	日本における社会的養護のしくみ			
	第4週	社会的養護に携わる専門職			
	第5週	家庭支援の理論と実践			
	第6週	家庭的養護の理念と里親制度			
	第7週	乳幼児の生命と健やかな育ちの保障			
	第8週	児童養護施設の歴史と自立支援			
	第9週	非行のある子どもの自立支援			
	第10週	情緒障がいのある子どもの社会的養護			
	第11週	知的・身体的障がいのある子どもの社会的養護			
	第12週	児童養護施設における子どもの権利擁護			
	第13週	当事者から見た日本の社会的養護			
	第14週	日本の社会的養護の今後の課題			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法 履修上の 注意	講義を中心に進める。				
成績評価の 方法	筆記試験（60%）、レポート（20%）、課題（10%）、授業態度（10%）				
教科書					
参考文献	授業中に適宜紹介する。				

授業科目	社会的養護	単位数	2	担当教員	佐藤 千代子
講義のねらいと概要	この講義では、年々増加傾向にある社会的養護を必要とする子どもたちの背景、社会的養護の法制度や体系、援助を行う機関や施設、社会的養護における人権擁護と自立支援、専門職の役割、援助者として必要な視点などについて理解を深める。また、以上のことを通じて、社会的養護の現状と課題について学ぶ。				
授業計画	第1週	ガイダンス 児童の社会的養護の理念と概念			
	第2週	社会的養護の歴史の変遷			
	第3週	社会的養護の概要～施設養護と家庭的養護～			
	第4週	児童の権利擁護と社会的養護			
	第5週	社会的養護の制度と法体系			
	第6週	社会的養護の仕組み			
	第7週	社会的養護に携わる専門職			
	第8週	施設養護の基本原則			
	第9週	施設養護の実際～日常生活支援、治療的支援、自立支援等～			
	第10週	施設養護とソーシャルワーク			
	第11週	施設等の運営管理と倫理の確立			
	第12週	虐待問題と児童養護			
	第13週	社会的養護と地域福祉			
	第14週	社会的養護の課題			
	第15週	試験 まとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>配布したプリント、資料等を使ってわかり易い講義を行う。わからない点があれば、どしどし質問すること。</p> <p>プリントは、ファイルにきちんと保管すること。</p> <p>複数回、復習を兼ねたミニレポートの提出をもとめる。</p> <p>授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（50％）、レポート（20％）、授業態度（30％）				
教科書	特に指定しない。				
参考文献	必要に応じて紹介する				

授業科目	発達心理学	単位数	2	担当教員	川田三夫																														
講義のねらいと概要	<p>到達目標は、各発達段階ごとの発達を理解する、各発達領域ごとの発達について理解する、の2つになる。</p> <p>祖父母、父母、そして今の子どもが育つ環境を比べると色々変わった所がある。こういった環境の変化が子どもの内面形成にどのような変化を生み出しているのかも考える様にしたい。例えば少子化で、大勢で外で遊ぶ子どもが少なくなり、反面、ゲーム等で室内で遊ぶ割合が増えた。こういった状況の変化が、子どもの内面形成にどのような影響を与えるのかといったことを考えてみる。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr> <td>第1週</td> <td>発達とは（遺伝と環境、成熟と学習、刻印づけ、ハーロウの実験、生理的早産、など）</td> </tr> <tr> <td>第2週</td> <td>発達段階（乳児、幼児、児童の各段階、主な発達課題、0歳児の発達、など）</td> </tr> <tr> <td>第3週</td> <td>年齢別の発達（1歳児の発達）</td> </tr> <tr> <td>第4週</td> <td>年齢別の発達（2歳児の発達）</td> </tr> <tr> <td>第5週</td> <td>年齢別の発達（3歳児の発達）</td> </tr> <tr> <td>第6週</td> <td>年齢別の発達（4歳児の発達）</td> </tr> <tr> <td>第7週</td> <td>年齢別の発達（5・6歳児の発達）</td> </tr> <tr> <td>第8週</td> <td>思考の発達（ピアジェを中心に、自己中心性、アニミズム、など）</td> </tr> <tr> <td>第9週</td> <td>思考の発達（ピアジェ：感覚運動、前概念、直観の各思考、均衡化理論、など）</td> </tr> <tr> <td>第10週</td> <td>言葉の発達（言葉の機能、内言と外言、喃語・初語・片言、一語文、など）</td> </tr> <tr> <td>第11週</td> <td>描画の発達（各発達段階、描写上の特徴と問題点、色の問題、など）</td> </tr> <tr> <td>第12週</td> <td>自己概念の発達（自我・パーソナリティ等に関連する理論、フロイト、エリクソン、など）</td> </tr> <tr> <td>第13週</td> <td>知覚の発達（知覚と認知、体制化、感情や欲求の影響、など）</td> </tr> <tr> <td>第14週</td> <td>情動の発達（情動の分類、ブリッジスの年齢別発達、かんしゃく、嫉妬、など）</td> </tr> <tr> <td>第15週</td> <td>発達障害、試験（自閉、多動、知的障害、知能検査など。筆記試験）</td> </tr> </table>					第1週	発達とは（遺伝と環境、成熟と学習、刻印づけ、ハーロウの実験、生理的早産、など）	第2週	発達段階（乳児、幼児、児童の各段階、主な発達課題、0歳児の発達、など）	第3週	年齢別の発達（1歳児の発達）	第4週	年齢別の発達（2歳児の発達）	第5週	年齢別の発達（3歳児の発達）	第6週	年齢別の発達（4歳児の発達）	第7週	年齢別の発達（5・6歳児の発達）	第8週	思考の発達（ピアジェを中心に、自己中心性、アニミズム、など）	第9週	思考の発達（ピアジェ：感覚運動、前概念、直観の各思考、均衡化理論、など）	第10週	言葉の発達（言葉の機能、内言と外言、喃語・初語・片言、一語文、など）	第11週	描画の発達（各発達段階、描写上の特徴と問題点、色の問題、など）	第12週	自己概念の発達（自我・パーソナリティ等に関連する理論、フロイト、エリクソン、など）	第13週	知覚の発達（知覚と認知、体制化、感情や欲求の影響、など）	第14週	情動の発達（情動の分類、ブリッジスの年齢別発達、かんしゃく、嫉妬、など）	第15週	発達障害、試験（自閉、多動、知的障害、知能検査など。筆記試験）
第1週	発達とは（遺伝と環境、成熟と学習、刻印づけ、ハーロウの実験、生理的早産、など）																																		
第2週	発達段階（乳児、幼児、児童の各段階、主な発達課題、0歳児の発達、など）																																		
第3週	年齢別の発達（1歳児の発達）																																		
第4週	年齢別の発達（2歳児の発達）																																		
第5週	年齢別の発達（3歳児の発達）																																		
第6週	年齢別の発達（4歳児の発達）																																		
第7週	年齢別の発達（5・6歳児の発達）																																		
第8週	思考の発達（ピアジェを中心に、自己中心性、アニミズム、など）																																		
第9週	思考の発達（ピアジェ：感覚運動、前概念、直観の各思考、均衡化理論、など）																																		
第10週	言葉の発達（言葉の機能、内言と外言、喃語・初語・片言、一語文、など）																																		
第11週	描画の発達（各発達段階、描写上の特徴と問題点、色の問題、など）																																		
第12週	自己概念の発達（自我・パーソナリティ等に関連する理論、フロイト、エリクソン、など）																																		
第13週	知覚の発達（知覚と認知、体制化、感情や欲求の影響、など）																																		
第14週	情動の発達（情動の分類、ブリッジスの年齢別発達、かんしゃく、嫉妬、など）																																		
第15週	発達障害、試験（自閉、多動、知的障害、知能検査など。筆記試験）																																		
指導方法 履修上の 注意	<p>(1) レジメを基本とし、資料（印刷、DVD等）、板書を併用する。</p> <p>(2) 発達、保育関連の話題、本、記事等を資料として紹介する。</p> <p>(3) 授業中の私語、携帯電話、飲食は禁止。好ましくない者は注意の上退出させる。</p>																																		
成績評価の 方法	<p>筆記試験（100%）</p> <p>授業4回毎に小試験を行う（配点は24点～26点）。合計4回で100点満点。</p>																																		
教科書	ない。																																		
参考文献	講義の時に紹介する。																																		



授業科目	保 育 の 心 理 学	単位数	1	担当教員	川 田 三 夫
講義のねらいと概要	<p>保育の実践にかかわる発達心理学の基本的な理論や概念は一応学修している。ここではさらに演習的な学修を通して理解を深めることを目標にする。</p> <p>まずライフサイクル的に各発達段階（発達過程）の特徴、子どもの心理を理解する。発達に関わる環境、家族関係、交遊関係等のテーマで演習的に理解を深める。</p> <p>また、個々の発達領域、身体・運動、情緒、知覚・認知、言葉、知的能力、遊び、社会性、人格、道徳性、発達障害、測定・評価の方法等のテーマで演習的に理解を深める。</p>				
授業計画	第1週	発達理論、発達観、児童観、保育観などのテーマ（説明、発表、質疑、など）			
	第2週	発達段階(発達過程)、各段階の特徴、子どもの心理などのテーマ（説明、発表、質疑、など）			
	第3週	身体・運動の発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）			
	第4週	情緒の発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）			
	第5週	知覚・認知の発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）			
	第6週	言葉の発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）			
	第7週	知的能力の発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）			
	第8週	遊びの発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）			
	第9週	友だち関係、社会性の発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）			
	第10週	人格の発達などのテーマ（説明、発表、質疑、など）			
	第11週	道徳性の発達、今日的な問題や課題などのテーマ（説明、発表、質疑、など）			
	第12週	発達障害、保育現場での関わり方などのテーマ（説明、発表、質疑、など）			
	第13週	測定・評価(理論、各種テストなど)などのテーマ（説明、発表、質疑、など）			
	第14週	子ども理解と保育実践[PDCA]などのテーマ（説明、発表、質疑、など）			
	第15週	特定のテーマについての振り返り（説明、発表、質疑、など）			
指導方法 履修上の 注意	<p>(1)グループ発表、質疑、まとめのレポートという形で行う。</p> <p>(2)レジメの作成、説明の仕方 質疑など、考える、発表する力の醸成を基本にする。</p> <p>(3)発表側、聞く側、双方に積極的な参加意識を要求する。</p>				
成績評価の 方 法	<p>毎回、グループ毎に4段階評価をつける。(100%)</p> <p>さらに、上記の観点からプラス、マイナス等の個別評価を加える。</p>				
教科書	ない。				
参考文献					

授業科目	教 育 社 会 学	単位数	2	担当教員	小 堀 哲 郎
講義のねらいと概要	<p>現代社会には〈教育〉をめぐる問題やトピックには事欠かない。また、今日の日本では、ほとんどの人が高校に進学し、さらに大学や短大などの高等教育を受ける人が 7 割に至る。このように、現代社会に生きる私たちは、〈教育〉と無縁であることはできないと言える。</p> <p>教育社会学は、現代社会と密接な関係にある〈教育〉というものに、社会学という学問的立場からアプローチをするものである。特に、この講義では、保育者を目指す学生に対して、毎回具体的な〈保育〉や〈子ども〉に関する話題を取り上げるので、現代の子どもが置かれている状況に理解を深めてほしいと思う。今年度は「地域」と「子ども」の関係を中心に講義する。</p>				
授業計画	第1週	地域（社会・文化）に生きる（育つ）子どもたち			
	第2週	地域社会の人間関係			
	第3週	ファミリーサポートセンター			
	第4週	子ども会			
	第5週	学童保育			
	第6週	地域スポーツ			
	第7週	三世代交流－新しい地域社会のために			
	第8週	三世代交流－見えてきた課題			
	第9週	生活科・総合的学習			
	第10週	PTA 活動			
	第11週	人生儀礼からみた子どもの成長			
	第12週	祭囃子の伝承			
	第13週	寝屋制度			
	第14週	子どもの貧困			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法 履修上の 注 意	講義を中心に進める。				
成績評価の 方 法	筆記試験（60%）、毎回の授業時に行うレポート（40%）				
教科書	『(仮) 地域に生きる子どもたち』（小堀哲郎編著、創成社）				
参考文献	授業中に適宜紹介する。				

授業科目	臨床心理学	単位数	2	担当教員	伊藤明芳
講義のねらいと概要	<p>臨床心理学は応用心理学の一つである。臨床心理学は心の悩みを解決し、人間を幸せにする学問ともいわれている。</p> <p>現代社会にはさまざまな心の問題が存在する。私たちが、人の心を理解しようとしたり、心の問題に向き合おうとしたりするとき、臨床心理学はそれらの試みをサポートしてくれる。</p> <p>本講義では、臨床心理学の基礎的知識の習得と現場で生きる臨床心理学の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。</p>				
授業計画	第1週	1. イントロダクション 臨床心理学とは何か			
	第2週	ロールプレイによる実習			
	第3週	2. 臨床心理学の心の捉え方と心理療法 精神分析			
	第4週	行動主義			
	第5週	人間性心理学			
	第6週	3. 心の発達			
	第7週	4. 心と脳			
	第8週	5. 心理アセスメント			
	第9週	6. 心の問題の理解と対応			
	第10週	7. 子どもの心の問題			
	第11週	8. 発達障害			
	第12週	9. 心の病気			
	第13週	10. 家庭支援と他者・他機関との連携			
	第14週	11. 保育者自身のメンタルヘルスを考える 臨床心理学の理論の活用			
	第15週	まとめと前期試験			
指導方法 履修上の 注意	<p>講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。</p> <p>その他、ビデオ視聴で理解を深め、ロールプレイ等も取り入れて、臨床心理学の体験的な学習もおこないたい。</p> <p>受講者には自ら学び考える意欲をもって授業に参加する態度が求められる。</p>				
成績評価の 方法	筆記試験（60％）、課題（40％）				
教科書	『事例で学ぶ 保育のための相談援助・支援～その方法と実際～』（須永進[編著]、同文書院）				
参考文献	他の参考図書等については、講義の中で必要に応じて適宜紹介する				

授業科目	情報機器利用	単位数	1	担当教員	榎本功子
講義のねらいと概要	パソコンの基本的な操作方法と、よく使われるアプリケーションソフトの使い方は、社会人として必要不可欠なものである。幼児教育の現場においても、園だよりやクラスだよりなど、さまざまな印刷物を作成したり、教育上必要な情報収集などのスキルが求められる。本講ではまず、エクセルによるさまざまな文書や表計算のスキルを習得するとともに、より高度な文書作成スキルを身につける。				
授業計画	第1週	簡単な表作成。			
	第2週	連絡名簿を作る。			
	第3週	便利な機能オートフィルを学ぶ。			
	第4週	円グラフや棒グラフの作成			
	第5週	カレンダーを作る（クリップアート、オートシェイプの活用）			
	第6週	デジカメや携帯で写真を撮り、パソコンに取り込み、保存する。			
	第7週	パソコンで簡単に写真を修正・加工する。その写真をエクセルに取り込む。			
	第8週	シートのコピーを学ぶ。			
	第9週	シートをまたいだコピーなどについて学ぶ。			
	第10週	表計算のしかた。			
	第11週	引き算、掛け算、割り算など。			
	第12週	簡単な関数の使い方。			
	第13週	住所録の作成			
	第14週	住所録の作成			
	第15週	便利なアプリケーションソフトについて。			
指導方法履修上の注意	実践的な授業なので、未経験者も経験者も、スキルアップを目指して積極的に取り組むこと。				
成績評価の方法	課題（70%）、授業態度（30%）				
教科書	授業に合わせたプリントを配布予定。				
参考文献	必要に応じて随時紹介する。				

授業科目	情 報 機 器 利 用	単位数	1	担当教員	金 宰 郁
講義のねらいと概要	<p>本科目では、幼児教育における「教育の方法及び技術」について、基礎的な理論と教育の方法を支援する情報機器（コンピュータ）そして教材の活用について理解を図ります。</p> <p>具体的には、以下のとおりです。</p> <p>①教育の方法、指導方法及び教育課程の原則について、その基本を理解すること。</p> <p>②情報機器及び教材の活用について、具体的な機器の学習を通じて理解すること。</p>				
授業計画	第1週	この授業科目に関するガイダンス			
	第2週	表計算ソフト「Excel」の基礎(1)：基本操作（文字入力等）、文書の保存・読み込み、その他			
	第3週	表計算ソフト「Excel」の基礎(2)：ワークシートの編集、ワークシートの書式設定、その他			
	第4週	表計算ソフト「Excel」の基礎(3)：簡単な数表の作成、数値データ・文字データの相違、データの編集（挿入・削除・移動）、編集シートの調整（セルの幅・高さの変更、罫線の付加など）、その他			
	第5週	表計算ソフト「Excel」の基礎(4)：グラフの作成			
	第6週	表計算ソフト「Excel」の基礎(5)：グラフの設定の変更1			
	第7週	表計算ソフト「Excel」の基礎(6)：グラフの設定の変更2			
	第8週	「Excel」の応用(1)：セル番地の絶対参照と相対参照			
	第9週	「Excel」の応用(2)：関数の利用1（IF関数など）			
	第10週	「Excel」の応用(3)：関数の利用2			
	第11週	「Excel」の応用(4)：関数の利用3			
	第12週	「Excel」の応用(5)：データ処理の応用1			
	第13週	「Excel」の応用(6)：データ処理の応用2			
	第14週	「Excel」の応用(6)：データ処理の応用3			
	第15週	「Excel」の応用(7)：実践データの処理			
指導方法履修上の注意	<p>本授業では、教育の方法、指導方法及び教科課程の基本原則を講義するとともに、情報機器を用いた具体的な指導を行います。したがって、</p> <p>1) 教育方法とその技術との関連を実際にとらえられるよう、積極的に授業に参加すること。</p> <p>2) 情報機器を用いて、その活用を身に付けるには、かなりの努力を必要とします。予習・復習を怠らず頑張ってください。</p> <p>3) 課題が出題された場合、担当教員の指示する提出方法および提出期限を厳守すること。</p>				
成績評価の方法	課題（40%）、発表（20%）、授業態度（40%）				
教科書	『文系学生のための情報活用』（共立出版）				
参考文献	『Windows Vista 対応 30時間でマスター：Excel 2007』（実教出版） 『30時間でマスター Word&Excel 2007』（実教出版編修部、実教出版）				

授業科目	障 害 児 保 育		単位数	2	担当教員	佐藤 千代子
講義のねらいと概要	<p>今日、障害のある子どもが保育所や幼稚園に通うことは一般的となり、さまざまな障害のある子どもが在籍するようになった。そのため保育者として障害に対する基礎的な知識や対応について学び、適切な指導や支援ができる力を養うことは重要なことである。</p> <p>授業では、従来の障害（知的障害、視覚・聴覚・肢体不自由など）に加え、最近、殊に保育の場で注目され、適切な支援や指導が求められている発達障害（自閉症、注意欠陥多動性障害、学習障害など）を取り上げ、その特性を理解し、支援の方法や技法を学び、保育の場で対応できるようにする。また、小学校や関係機関との連携、家族への支援についても学ぶ。</p>					
授業計画	第1週	ガイダンス 障害児保育とは	第16週	視覚障害児の理解と保育		
	第2週	障害児保育の形態	第17週	聴覚障害児の理解と保育		
	第3週	障害児保育の歩み	第18週	肢体不自由児の理解と保育		
	第4週	知的障害の理解 診断基準、原因	第19週	言語障害児の理解と保育		
	第5週	知的障害の理解 特徴	第20週	気になる子どもの保育 情緒障害など		
	第6週	知的障害児への対応	第21週	気になる子どもの保育 未熟児など		
	第7週	自閉症の理解	第22週	障害のある子どもの保育方法 保育者の姿勢		
	第8週	自閉症児の支援のポイント	第23週	障害のある子どもの保育方法 - 基本的生活習慣		
	第9週	自閉症児の保育現場における支援	第24週	障害のある子どもの保育と指導計画		
	第10週	注意欠陥多動性障害（ADHD）の理解	第25週	個別の指導計画		
	第11週	注意欠陥多動性障害児の支援のポイント	第26週	障害のある子どもの保育実践と評価		
	第12週	注意欠陥多動性障害児の保育現場での支援	第27週	幼稚園・保育所と小学校の連携		
	第13週	学習障害（LD）の理解	第28週	保護者への支援 - 障害受容		
	第14週	学習障害児の保育現場における支援	第29週	保護者への支援 子育て支援		
	第15週	試験・前期のまとめ	第30週	試験・後期のまとめ		
指導方法 履修上の 注 意	<p>教科書を中心に、プリントやDVDなどを使用してわかりやすい講義をする。わからない点については、どしどし質問すること。</p> <p>複数回、復習を兼ねたミニレポートの提出をもとめる。</p> <p>ボランティアなどに参加し、日ごろから障害児（者）に関わる機会をもってほしい。</p> <p>授業中の私語、飲食、携帯の使用は厳禁。</p>					
成績評価の方法	筆記試験（50%）、レポート（20%）、授業態度（30%）					
教科書	『新・障害のある子どもの保育 第2版』（伊藤健次 編（株）みらい）					
参考文献	必要に応じて紹介する					

授業科目	障 害 児 保 育		単位数	2	担当教員	齋 藤 新 一
講義のねらいと概要	<p>障害種別による障害児の障害特性と環境要因による行動特性の違い、障害児の基本的身近自立技能の獲得方法、TEACCHプログラムの考え方をを用いた自閉症児の支援方法、障害児の問題行動の捉え方やその改善方法については、応用行動分析の考え方をベースにして演習形式により実践的な学習をしていきます。また、保育所だけでは障害児のニーズを十分に満たすことはできないことがあり、専門機関との連携・協力は不可欠となっています。地域にある専門機関とその業務内容等についても学習していきます。</p>					
授業計画	第1週	ガイダンス(学習の狙い、学ぶべき内容)	第16週	学習障害児の理解と保育		
	第2週	現在の子育て事情の現状	第17週	注意欠陥多動障害児の理解と保育		
	第3週	保育現場で出会う「気になる子」	第18週	演習: 障害児の問題行動の理解		
	第4週	障害児保育の仕組み	第19週	演習:障害児の問題行動に対する対処方法		
	第5週	障害児保育の仕組み	第20週	演習: 障害児の問題行動に対する対処方法		
	第6週	知的障害児の理解と保育	第21週	演習: 障害児の問題行動に対する支援方法立案		
	第7週	ダウン症の理解と保育	第22週	障害を持っていくことを考える		
	第8週	演習:基本的身近自立技能習得支援の実際	第23週	家族支援(家族に寄り添う)		
	第9週	演習: 基本的身近自立技能習得支援の実際	第24週	児童関係専門機関との連携		
	第10週	自閉症児の理解と保育 ビデオ	第25週	児童関係専門機関との連携		
	第11週	演習:自閉症児の理解と保育	第26週	就学に向けての学校教育との連携		
	第12週	演習:自閉症児の理解と保育 物理的構造化	第27週	演習:実践で学ぶインシデントプロセス法		
	第13週	演習:自閉症児の理解と保育 視覚的構造化	第28週	演習:総合的事例検討		
	第14週	前期まとめ	第29週	後期まとめ		
	第15週	前期試験と解説など	第30週	後期試験と解説など		
指導方法 履修上の 注 意	<p>授業は演習形式中心で進めていく予定です。各学生の積極的な授業参加を求めるとともに、その授業内容の理解度について、各授業内でレポート提出があります。このレポートは成績評価の対象となりますので、欠席には十分注意してください。</p>					
成績評価の 方 法	筆記試験(40%)、各授業内レポート(40%)、学ぼうとする授業態度(20%)					
教 科 書						
参 考 文 献	『よくわかる障害児保育』(尾崎康子他、ミネルヴェア書房)、自閉症に関する文献・資料等の参考・引用文献は、その都度紹介していきます。					

授業科目	社会的養護内容	単位数	1	担当教員	志濃原 亜美
講義のねらいと概要	<p>施設養護や里親など社会的養護の実際について学び、社会的養護における児童の権利擁護や保育士等社会福祉施設従事者の倫理について、また、ソーシャルワークの技術など専門的技術などを体系的に理解する。</p> <p>さらに、個々に応じた支援計画の作成、記録の書き方、自己評価についても具体的に学ぶ。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション			
	第2週	施設実習を振り返って			
	第3週	社会的養護の歴史の変遷と概念			
	第4週	児童の権利擁護と社会的養護			
	第5週	社会的養護の制度やしぐみ			
	第6週	社会的養護の実際(1)	グループワーク		
	第7週	社会的養護の実際(2)	グループワーク		
	第8週	社会的養護の実際(3)	グループワーク		
	第9週	社会的養護の実際(4)	グループワーク		
	第10週	社会的養護の実際(5)	グループワーク		
	第11週	社会的養護の現状			
	第12週	社会的養護の課題と地域福祉			
	第13週	グループ発表の調整			
	第14週	グループ発表1			
	第15週	グループ発表2			
指導方法 履修上の 注意	演習を中心とする。普段から児童問題に関心を持ち、主体的に授業に参加すること。				
成績評価の 方法	レポート(20%)、発表(50%)、授業態度(30%)				
教科書	『保育士養成課程 社会的養護内容』(光生館)				
参考文献	『最新保育資料集2013』(ミネルヴァ書房) 参考文献は適宜紹介する				



授業科目	社会的養護内容	単位数	1	担当教員	佐藤 千代子
講義のねらいと概要	<p>子どもは家庭で育てられるのが一般的であるが、家庭養護だけでは子どもの養育が困難な状況となっており、国や社会で子どもたちを養育・保護する「社会的養護」が重要となってきた。社会的養護の役割は、子どもの安らかで健全な生活を確保し、心身の成長や発達を促すこと、また、虐待など不適切な養育により心身に傷を抱えた子どものケアを行い、その子どもの社会的な自立までの支援であるといわれている。授業ではさまざまな子どもの事例を通して、子どもの理解を深め、社会的養護の果たしている役割を理解する。また、子どもの守られなければならない権利についても学び、子どもの最善の利益についても深く考える。</p>				
授業計画	第1週	ガイダンス 社会的養護の場としての児童養護の体系と児童福祉施設の概要			
	第2週	社会的養護の決定の仕組みー児童相談所の役割			
	第3週	施設養護の実際～乳児院・母子生活支援施設～			
	第4週	施設養護の実際～児童養護施設～			
	第5週	施設養護の実際～児童自立支援施設～			
	第6週	施設養護の実際～情緒障害児短期治療施設～			
	第7週	施設養護の実際～重症心身障害児施設～			
	第8週	施設養護の実際～知的障害児施設～			
	第9週	里親制度の特性及び実際			
	第10週	心の傷を癒し、心を育むための援助			
	第11週	虐待された子どもへの支援			
	第12週	虐待した家族への支援			
	第13週	児童の権利擁護～子どもの最善の利益～			
	第14週	子どもの権利を守る仕組み・支援者としての資質と倫理			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法 履修上の 注意	<p>配布したプリント、資料・DVD等を使ってわかり易い講義を行う。内容により、グループ討議を行う。わからない点があれば、どしどし質問すること。 プリントは、ファイルにきちんと保管すること。 複数回、復習を兼ねたミニレポートの提出をもとめる。 授業中の私語、飲食、携帯電話の使用は厳禁。</p>				
成績評価の 方法	筆記試験（50％）、レポート（20％）、授業態度（30％）				
教科書	特に指定しない。				
参考文献	必要に応じて紹介する				

授業科目	保 育 課 程 総 論	単位数	2	担当教員	金村 美千子
講義のねらいと概要	幼稚園や保育所では、子ども達の心身ともに健全な発達を促すために、入園時から卒園するまでの生活の大綱を記述した教育課程・保育課程を編成しなければならない。この授業では、教育課程の編成・保育課程の編成と指導計画の作成について理解すると共に、計画、実践、省察・評価、改善の過程について全体構造を動的に理解することを目標とする。				
授業計画	第1週	カリキュラムの基礎理論			
	第2週	「保育所における保育の計画」「幼稚園の教育課程・指導計画」と評価の意義			
	第3週	計画、実践、省察・評価、改善の過程の循環による保育の質の向上			
	第4週	保育課程・教育課程編成のための基本（1）	子どもの発達、環境構成		
	第5週	保育課程・教育課程編成のための基本（2）	保育者の援助		
	第6週	保育課程・教育課程編成のための基本（3）	地域の実態		
	第7週	保育課程・教育課程編成のための基本（4）	園の実態		
	第8週	保育課程・教育課程編成のための基本（5）	行事		
	第9週	保育課程の編成手順			
	第10週	教育課程の編成手順			
	第11週	指導計画の作成			
	第12週	保育所・幼稚園における保育の評価			
	第13週	保育の評価：子どもの経験からの振り返り			
	第14週	試験・まとめ			
	第15週	まとめ			
指導方法 履修上の 注意	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 風邪を引いているときには、必ずマスクをすること。</li> <li>2. オープンキャンパス等で教室変更があると授業内容の変更をする場合がある。</li> <li>3. 学生の私語は、授業を進めるうえで教師にとっても勉学熱心な学生にとっても迷惑である。学生は、このことをしっかり頭に入れて授業に出てもらいたい。</li> </ol>				
成績評価の 方法	<p>筆記試験（100%）</p> <p>筆記試験で50点未満の場合には、毎授業時に提出された「授業のまとめ」を評価して10点以下の範囲で加点する。</p>				
教科書	『教育課程・保育課程総論』（金村美千子編著、同文書院）				
参考文献					

授業科目	保 育 内 容 総 論	単位数	1	担当教員	井 口 正 彦
講義のねらいと概要	<p>子育てをめぐる社会状況は、著しい出生率の低下により少子化が深刻に加速するなか心痛む「幼児虐待」の報道が映し出されている。行政は2005年度には、子育て支援策となる「新エンゼルプラン」の策定、そして2006年10月より幼稚園・保育園の一体型施設「認定こども園」の推進を実施している。このように、子どもに関する状況の変化がめまぐるしくある。しかし、行政の対応する施策以上に家庭や社会の価値観が多様化し、子育ての現場が、現実の需要に対応しかねる現状である。この授業は、その事を踏まえて保育所保育指針に基づく保育内容等の基礎的学習を通して、時代が求める保育士について理解が深められるように進めていきたい。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション			
	第2週	保育現場の現状について			
	第3週	保育所と幼稚園について			
	第4週	保育所保育指針・総則			
	第5週	保育所保育指針・子どもの発達			
	第6週	保育所保育指針・6か月未満児の保育の内容			
	第7週	保育所保育指針・6か月から1歳3か月未満児の保育の内容			
	第8週	保育所保育指針・1歳3か月から2歳未満児の保育の内容			
	第9週	保育所保育指針・2歳児の保育の内容			
	第10週	保育所保育指針・3歳児の保育の内容			
	第11週	保育所保育指針・4歳児の保育の内容			
	第12週	保育所保育指針・5歳児の保育の内容			
	第13週	保育所保育指針・6歳児の保育の内容			
	第14週	これからの子育て支援について			
	第15週	試験			
指導方法 履修上の 注 意	配布したプリント、資料等を使って講義を行う。保育現場での事例を取り入れる。				
成績評価の 方 法	筆記試験（60％）、レポート（20％）、授業態度（20％）				
教 科 書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針（原本）』（文部科学省・厚生労働省、チャイルド社）				
参考文献					

授業科目	保 育 内 容 総 論	単位数	1	担当教員	福 田 武 比 古
講義のねらいと概要	<p>「保育所保育指針」は、昭和40年8月に策定・施行されたもので、保育所の保育内容や保育方法等についての基本的理念・留意事項等を示したガイドラインである。（「保育所保育指針」は平成20年3月に再改定され、厚生労働大臣告示となり、21年4月より施行）「幼稚園教育要領」は、昭和31年に策定、39年3月に文部大臣（当時）告示として改定・施行されている。（「幼稚園教育要領」も平成20年3月に再改定・告示され、21年4月より施行）</p> <p>本授業では、「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」を中心に、保育内容全般及び保育情勢の最新の動向等について考察し理解する。</p>				
授業計画	第1週	子育ての社会的支援			
	第2週	福祉と教育の理念（児童福祉施設としての保育所・教育施設としての幼稚園）			
	第3週	我が国の保育制度と保育の歴史			
	第4週	保育所・幼稚園・認定こども園の制度と保育内容			
	第5週	保育をめぐる最近の動向			
	第6週	保育施設に期待される機能（仕事と子育ての両立支援・地域の子育て支援）			
	第7週	望ましい保育者像（保育者のためのチェックリスト）			
	第8週	保育所保育指針と幼稚園教育要領の改定			
	第9週	保育の役割、保育の原理、保育の社会的責任			
	第10週	子どもの発達（乳幼児期の発達の特性、発達過程）			
	第11週	保育の内容（保育のねらい及び内容、保育の実施上の配慮事項）			
	第12週	保育の計画及び評価（保育の計画、保育の内容等の自己評価）			
	第13週	健康及び安全（子どもの健康支援、環境及び衛生管理並びに安全管理、食育の推進、健康及び安全の実施体制）			
	第14週	保護者に対する支援（保護者に対する支援の基本、地域における子育て支援）			
	第15週	職員の資質向上（職員の資質向上に関する基本的事項、施設長の責務、職員の研修等）			
指導方法 履修上の 注 意	<p>1. 「保育所保育指針」「幼稚園教育要領」及び参考資料に基づき講義</p> <p>2. 必要に応じて、バズセッション等の演習</p>				
成績評価の 方 法	レポート（60％）、授業態度（40％）				
教 科 書	授業時に配布するプリント				
参 考 文 献	『保育所保育指針』、『幼稚園教育要領』				

授業科目	保育内容（健康）	単位数	1	担当教員	北 洞 誠 一
講義のねらいと概要	<p>将来の子どもたちの真の自立を考えた時、保育者としてどのように考え、子どもたちに接して、働きかけたら良いかという課題に対して、健康面からアプローチして行きます。健康の考え方、健康的な過ごし方、運動の必要性、食の問題等を学びます。</p>				
授業計画	第1週	健康の考え方			
	第2週	保育内容「健康」のねらいと内容			
	第3週	乳幼児期の発育発達（身体の発達）			
	第4週	乳幼児期の発育発達（情緒・社会性・パーソナリティの発達）			
	第5週	乳幼児期の運動の必要性			
	第6週	乳幼児期の運動の必要性			
	第7週	最近の子ども達の問題点			
	第8週	食育			
	第9週	食の問題			
	第10週	健康生活（睡眠）			
	第11週	健康生活（体温）			
	第12週	ビデオ学習			
	第13週	ビデオ学習			
	第14週	ビデオ学習			
	第15週	試験・まとめ			
指導方法履修上の注意	<p>席は学籍番号順に座ること。授業妨害行為（私語、無駄話、雰囲気乱す事等）やコミュニケーションを故意に取らない行為に対しては、教室から退去してもらいます。明らかな授業放棄（他の作業に従事、長時間の睡眠や繰り返しの睡眠）に対しても退去を要請します。指示に従わない場合は、欠席扱いか試験欠格者として扱います。体調が悪く、姿勢を維持できない場合はいつでも教師に申し出ること。出欠確認後の遅刻は、授業終了後に、入室時刻と共に申し出ること。申告のない場合は欠席扱いとなります。受け身で授業に参加するのではなく、保育の専門家となるべく積極的に知識や思考法を吸収しようとする事。必要に応じてビデオを鑑賞します。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（レポートを含む）（80％） 授業態度等（20％）				
教科書	『保育内容「健康」』（宮下恭子編、大学図書出版）				
参考文献					

授業科目	保育内容（人間関係）	単位数	1	担当教員	丸橋 聡美
講義のねらいと概要	<p>保育内容の領域「人間関係」は、他の人々と親しみ支えあって生活するために、自立心を育て、人とのかかわる力を養う観点から設けられている。人とのかかわりは、単に人とうまく付き合える、うまく集団に順応できるということではなく、人と人との心が深く結び合い、豊かなかかわりがもてるような集団が形成されることをめざすことが必要である。</p> <p>子どもが人とのかかわる力を養っていくためには、保育者はどのような援助や指導を行なっていけばよいのかを学ぶ。「幼稚園教育要領」「保育所保育指針」の精神や内容を踏まえながら、具体的な実践事例を取り上げて講義を行なう。</p>				
授業計画	第1週	保育の基本と人とのかかわり			
	第2週	人とのかかわりに関する領域「人間関係」			
	第3週	人とのかかわりの発達（1）			
	第4週	人とのかかわりの発達（2）			
	第5週	子どもの生活と人とのかかわり（1）			
	第6週	子どもの生活と人とのかかわり（2）			
	第7週	遊びのなかで育つ人とのかかわり（1）			
	第8週	遊びのなかで育つ人とのかかわり（2）			
	第9週	遊びのなかで育つ人とのかかわり（3）			
	第10週	人とのかかわりを育てる保育の実践（1）			
	第11週	人とのかかわりを育てる保育の実践（2）			
	第12週	人とのかかわりの育ちを見る視点（1）			
	第13週	人とのかかわりの育ちを見る視点（2）			
	第14週	人とのかかわりを育てる保育者の役割			
	第15週	領域「人間関係」をめぐる諸問題			
指導方法 履修上の 注意	<p>講義を中心に行なう。</p> <p>必要に応じてビデオ視聴を取り入れ、資料を配布しながら進める。</p>				
成績評価の方法	レポート（50％）、課題（25％）、授業態度（25％）				
教科書	『幼稚園教育要領』『保育所保育指針』				
参考文献	『家庭支援の保育学』（編著 武藤安子・吉川晴美・松永あけみ、建帛社）				

授業科目	保育内容（環境）	単位数	1	担当教員	中村陽一
講義のねらいと概要	<p>「幼稚園教育要領」における保育内容「環境」は、「周囲のさまざまな環境に興味を持ってかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う」観点から示されたものである。そのなかで、幼児期において自然と直接触れ合う体験はきわめて重要であることが強調されている。これは、「保育所保育指針」においても基本的に同様である。</p> <p>子どもが有意義な自然体験を得るためには、保育者が身近な自然環境についてさまざまな知識をもち、必要に応じて適切に援助することが求められる。本講では、幼児と自然とのかわりと保育者の適切な援助について具体的に学ぶ。</p>				
授業計画	第1週	保育内容（環境）の保育思想と歴史			
	第2週	幼稚園教育要領の領域「環境」の内容			
	第3週	保育所保育指針の領域「環境」の内容			
	第4週	フレーベルの思想と保育内容（環境）			
	第5週	明治期の保育と思想			
	第6週	大正・昭和の保育思想と環境			
	第7週	倉橋惣三と誘導保育論			
	第8週	園庭の環境			
	第9週	保育室の環境			
	第10週	動物の飼育			
	第11週	植物の栽培			
	第12週	園外保育 お散歩			
	第13週	園外保育 遠足			
	第14週	自然遊び			
	第15週	季節と保育環境			
指導方法 履修上の 注意	将来幼児教育に携わるものとして自覚を持ち、問題意識を持って取り組むこと。				
成績評価の 方法	期末試験（70％）、小テスト（30％）				
教科書	『幼稚園教育要領・保育所保育指針（原本）』（文部科学省・厚生労働省、チャイルド本社） 『幼稚園教育要領解説』（文部科学省、フレーベル館） 『保育所保育指針解説書』（厚生労働省、フレーベル館）				
参考文献	必要に応じて紹介する。				

授業科目	保育内容（言葉）	単位数	1	担当教員	高原典子
講義のねらいと概要	<p>この教科では、乳幼児の言葉の獲得過程について学ぶと同時に、子どもの豊かな言葉を育むための環境構成や保育の内容について、理解と習得を目指します。乳幼児の生活における遊びや人との関わりが、言葉の発達と相互的にどのように影響し合うかについて、さまざまな事例を通して学びます。また子ども及び保護者への適切な言葉かけや援助ができるようになることを目指して演習を行います。</p> <p>さらには、子どもの言葉や想像力、創造性を豊かにする児童文化財（絵本・素話・紙芝居・わらべうたなど）についても演習を積み、保育実技の向上を目指します。</p>				
授業計画	第1週	授業のねらい及び「領域 言葉」について			
	第2週	乳幼児の生活における言葉の機能について			
	第3週	乳幼児の言葉を育む児童文化財について①（絵本・紙芝居など）			
	第4週	乳児の言葉の発達① 満1歳頃までの乳児の言葉の獲得について			
	第5週	乳児の言葉の発達② 1～2歳頃の子どもの言葉の獲得について			
	第6週	幼児の言葉の発達③ 3～4頃の子どもの言葉の獲得について			
	第7週	幼児の言葉の発達④ 就学前までの子どもの言葉の獲得について			
	第8週	DVDを視聴し、園生活での子どもと保育者の言葉について考察			
	第9週	乳幼児の言葉の発達①～④の復習テストとまとめ			
	第10週	保育実践における事例を通して、保育者の言葉かけと援助のしかたを学ぶ①			
	第11週	保育実践における事例を通して、保育者の言葉かけと援助のしかたを学ぶ②			
	第12週	乳幼児の言葉を育む児童文化財について②（素話・わらべうたなど）			
	第13週	DVDを視聴し、子どもの遊びと言葉について考察			
	第14週	言葉の障とくを持つ子どもへの援助について			
	第15週	総括			
指導方法履修上の注意	<p>本教科では、第4週目以降、一人ひとりが紙芝居の実演に取り組みますので、各自よく練習して臨んで下さい。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（30%）、レポート（30%）、実技（20%）、授業態度（20%）				
教科書	<p>指定なし。</p> <p>教材については、授業中、必要に応じて印刷物を配布します。</p>				
参考文献	<p>『演習 保育内容 言葉』（戸田雅美編著 建帛社）『保育内容 言葉』（秋田喜代美ほか著、光生館）、『事例で学ぶ保育内容＜領域＞言葉』（無藤 隆監修、萌文書林）、『子どもとことば』（岡本夏木著、岩波新書）、幼稚園教育要領、保育所保育指針</p>				



授業科目	保育内容（音楽表現）	単位数	1	担当教員	高崎和子																														
講義のねらいと概要	<p>保育内容の領域「表現」について、子どもの音楽表現に関する内容を中心に、その指導理念と実技を学びます。</p> <p>この授業では、子どもの生活の中での音楽に関する表現活動を理解し、援助するために必要な知識と技術を身につけるとともに、自らの感性を豊かにし、そしてリズムカルな表現を楽しむことを目標とします。</p>																																		
授業計画	<table border="1"> <tr><td>第1週</td><td>領域「表現」のとらえ方、領域「表現」のねらいと内容について</td></tr> <tr><td>第2週</td><td>子どもの発達と音楽表現活動</td></tr> <tr><td>第3週</td><td>子どもの表現の援助者としての資質について</td></tr> <tr><td>第4週</td><td>保育における「わらべうた」あそびの意義と音楽的構造について</td></tr> <tr><td>第5週</td><td>絵かきうたの演習</td></tr> <tr><td>第6週</td><td>絵かきうたの創作・発表</td></tr> <tr><td>第7週</td><td>パネルシアター（1）保育の中でのパネルシアターの効果的な活用法</td></tr> <tr><td>第8週</td><td>パネルシアター（2）うたを取り入れたパネルシアターの演習</td></tr> <tr><td>第9週</td><td>乳児のふれあいあそびうた</td></tr> <tr><td>第10週</td><td>生活のうた、手あそび</td></tr> <tr><td>第11週</td><td>季節のうたあそび</td></tr> <tr><td>第12週</td><td>行事と音楽</td></tr> <tr><td>第13週</td><td>手あそびの創作（1）テーマの設定・作品の制作</td></tr> <tr><td>第14週</td><td>手あそびの創作（2）作品の制作・練習</td></tr> <tr><td>第15週</td><td>発表・まとめ</td></tr> </table>					第1週	領域「表現」のとらえ方、領域「表現」のねらいと内容について	第2週	子どもの発達と音楽表現活動	第3週	子どもの表現の援助者としての資質について	第4週	保育における「わらべうた」あそびの意義と音楽的構造について	第5週	絵かきうたの演習	第6週	絵かきうたの創作・発表	第7週	パネルシアター（1）保育の中でのパネルシアターの効果的な活用法	第8週	パネルシアター（2）うたを取り入れたパネルシアターの演習	第9週	乳児のふれあいあそびうた	第10週	生活のうた、手あそび	第11週	季節のうたあそび	第12週	行事と音楽	第13週	手あそびの創作（1）テーマの設定・作品の制作	第14週	手あそびの創作（2）作品の制作・練習	第15週	発表・まとめ
第1週	領域「表現」のとらえ方、領域「表現」のねらいと内容について																																		
第2週	子どもの発達と音楽表現活動																																		
第3週	子どもの表現の援助者としての資質について																																		
第4週	保育における「わらべうた」あそびの意義と音楽的構造について																																		
第5週	絵かきうたの演習																																		
第6週	絵かきうたの創作・発表																																		
第7週	パネルシアター（1）保育の中でのパネルシアターの効果的な活用法																																		
第8週	パネルシアター（2）うたを取り入れたパネルシアターの演習																																		
第9週	乳児のふれあいあそびうた																																		
第10週	生活のうた、手あそび																																		
第11週	季節のうたあそび																																		
第12週	行事と音楽																																		
第13週	手あそびの創作（1）テーマの設定・作品の制作																																		
第14週	手あそびの創作（2）作品の制作・練習																																		
第15週	発表・まとめ																																		
指導方法 履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指導理念についての講義と実技を組み合わせながら、各内容を総合的に進めます。</li> <li>・取り上げる教材や課題によって、グループ研究を行います。</li> </ul>																																		
成績評価の 方法	レポート（10％）、作品（30％）、実技（30％）、授業態度（30％）																																		
教科書	『実用こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版社）																																		
参考文献																																			

授業科目	保育内容（造形表現Ⅰ）	単位数	1	担当教員	豊 泉 尚 美
講義のねらいと概要	この授業では、保育内容「表現」について、主に造形表現の教材研究を行います。制作に向かいながら、「音楽表現」や「人間関係」等、関連する教科とも連携を図り、学生一人ひとりが様々な表現方法を身につけ、子どもたちとかわることができるように支援していきます。				
授業計画	第1週	幼児の造形表現について			
	第2週	自己紹介グッズ 制作（1）			
	第3週	自己紹介グッズ 制作（2）			
	第4週	造形教材について（1） エプロンシアター・絵本・紙芝居 等			
	第5週	造形教材について（2） パネルシアターについて			
	第6週	パネルシアター制作（1）			
	第7週	パネルシアター制作（2）			
	第8週	パネルシアター制作（3）			
	第9週	パネルシアター制作（4）			
	第10週	パネルシアター制作（5）			
	第11週	絵本のよみきかせ			
	第12週	パネルシアターの演出方法			
	第13週	パネルシアター発表（1）			
	第14週	パネルシアター発表（2）			
	第15週	パネルシアター発表（3）			
指導方法 履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作品の提出期限を厳守すること</li> <li>・制作に要する材料費は自己負担とします。（パネルシアター材料費として800~1700円がかかります。）</li> </ul>				
成績評価の方法	作品（40％）、発表（40％）、授業態度（20％）				
教科書					
参考文献					

授業科目	保育内容（音楽表現）	単位数	1	担当教員	高崎和子
講義のねらいと概要	<p>子どもの活動は、一つの領域に留まらず、さまざまな領域に関連を持ちながら、総合的に展開していくものであるから、広い視野に立っての理解と実践が必要となります。</p> <p>この授業では、「音楽表現」で学んだ知識・技能を活かし、他領域と連携させながら、総合的な表現活動の指導法について学びます。</p>				
授業計画	第1週	授業のねらいや進め方について			
	第2週	新しい子どものうたあそび（1）季節のうたあそび			
	第3週	新しい子どものうたあそび（2）じゃんけんあそび			
	第4週	新しい子どものうたあそび（3）ふれあいあそび			
	第5週	新しい子どものうたあそび（4）身体あそび			
	第6週	外国のあそびうた			
	第7週	行事と音楽			
	第8週	リズムあそび、リトミック（1）リズムカルなうたあそび			
	第9週	リズムあそび、リトミック（2）保育の中におけるリトミックの活用法			
	第10週	リズムあそび、リトミック（3）リズム楽器を用いたあそび			
	第11週	効果音としての音楽の使い方			
	第12週	総合的な表現活動の研究（1）表現形態・テーマの設定・イメージづくり			
	第13週	総合的な表現活動の研究（2）作品の制作			
	第14週	総合的な表現活動の研究（3）総合練習			
	第15週	発表・まとめ			
指導方法 履修上の 注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義は必要に応じて取り入れますが、実技を中心として進めます。</li> <li>・グループによる創作活動は、自主的な態度で積極的に進めてほしい。</li> </ul>				
成績評価の方法	レポート（10％）、作品（30％）、実技（30％）、授業態度（30％）				
教科書	『実用こどものうた』（田口雅夫・高崎和子共編、カワイ出版社）				
参考文献					

授業科目	保育内容（造形表現）	単位数	1	担当教員	豊泉尚美
講義のねらいと概要	<p>この授業では、幼児の造形表現について理解を深め、子ども一人ひとりの感性を尊重しつつ、表現意欲を引き出すための、望ましい援助の方法を考えます。</p> <p>また授業中は、「様々な素材と出会って制作し、表現する」ということを子どもの側と保育者側、両方の視点に立って行うように求めます。</p>				
授業計画	第1週	授業のねらいや進め方について			
	第2週	保育における造形活動（1）			
	第3週	保育における造形活動（2）			
	第4週	幼児の発達と造形表現（1）			
	第5週	幼児の発達と造形表現（2）			
	第6週	造形活動の技法と実践方法（1）			
	第7週	造形活動の技法と実践方法（2）			
	第8週	造形活動の技法と実践方法（3）			
	第9週	造形活動の技法と実践方法（4）			
	第10週	造形活動の技法と実践方法（5）			
	第11週	造形活動の技法と実践方法（6）			
	第12週	造形活動の指導計画と制作（1）			
	第13週	造形活動の指導計画と制作（2）			
	第14週	造形活動の指導計画と制作（3）			
	第15週	造形表現活動の意義を考える			
指導方法履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作に要する材料費は自己負担とする。（授業開始後、材料費として約200円徴収する。）</li> <li>・作品の提出期限を厳守すること。（作品はファイル等にまとめて学期末に提出する）</li> </ul>				
成績評価の方法	筆記試験（20％）、作品（40％）、発表（20％）、授業態度（20％）				
教科書	『造形表現』（新井規夫・染谷哲夫・豊泉尚美 他 圭文社）				
参考文献					

授業科目	保 育 指 導 方 法		単位数	2	担当教員	井 口 正 彦
講義のねらいと概要	<p>子ども達は五感を使って自分を取り巻く外界をひとつ・ひとつ確かめ、かかわっていきます。このような子どもの姿から保育指導を考えるにあたり、「子どもの中に何が育とうとしているのか」「興味や関心は何なのか」「出会わせたい経験は何か」などを重視し、子ども達がいきいきと主体的に活動していく「内容」とするために保育者の心のアンテナと愛情がしっかりしていなくてはなりません。この授業では、前半は年間の園行事を通して各行事の考え方・保育の指導方法を学習し、後半は実際の保育事例を用いながら保育における指導方法を学び、保育者として心豊かな感性を身につけることをねらいとします。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション	第16週	指導計画と保育指導方法について		
	第2週	0歳児の保育のねらい	第17週	4月の園行事・考え方と保育指導		
	第3週	1歳児・2歳児の保育のねらい	第18週	5月の園行事・考え方と保育指導		
	第4週	3歳児の保育のねらい	第19週	6月・7月の園行事・考え方と保育指導		
	第5週	4歳児・5歳児の保育のねらい	第20週	保育指導方法の基本について		
	第6週	保育活動と園行事について	第21週	保育の魅力と保育指導方法について		
	第7週	9月の園行事・考え方と保育指導	第22週	保育方法の原理について		
	第8週	10月の園行事・考え方と保育指導	第23週	乳幼児の理解と保育指導方法について		
	第9週	11月の園行事・考え方と保育指導	第24週	遊びをとおしての保育指導方法		
	第10週	12月の園行事・考え方と保育指導	第25週	環境による保育指導方法		
	第11週	1月の園行事・考え方と保育指導	第26週	保育における個と集団について		
	第12週	2月の園行事・考え方と保育指導	第27週	幼児期の保育と小学校教育の関連		
	第13週	3月の園行事・考え方と保育指導	第28週	地域と連携した保育について		
	第14週	予備日	第29週	予備日		
	第15週	試験	第30週	試験		
指導方法履修上の注意	配布したプリント、資料等を使って講義を行う。保育現場での事例を取り入れる。					
成績評価の方法	筆記試験（60％）、レポート（20％）、授業態度（20％）					
教科書						
参考文献						

授業科目	保 育 指 導 方 法		単位数	2	担当教員	菊 地 政 隆
講義のねらいと概要	<p>保育では、5領域が小学校の教科のように分断されて行われるのではない。子どもたちが園で繰り返し続けていく日々の生活や遊びの中に各領域の側面が埋め込まれているのである。そのため発達と5領域のかかわりを見据えながら総合的に保育を理解することが保育者に求められる。本講義では、幼稚園、保育園の両側面より、出来るだけ実践事例や保育実技を織り込みながら、保育内容を総合的に捉える視点を養っていくとともに、保育を展開していくための保育者としての資質と指導法を身につけることを目的とする。</p>					
授業計画	第1週	現代の子ども	第16週	園行事の考え方と指導方法<春>		
	第2週	手遊びの基礎	第17週	園行事の考え方と指導方法<夏>		
	第3週	手遊びの基礎	第18週	園行事の考え方と指導方法<秋>		
	第4週	手遊びの発展	第19週	園行事の考え方と指導方法<冬>		
	第5週	連絡帳の書き方	第20週	園行事の計画と指導(入園式・遠足)		
	第6週	ペープサートの作成	第21週	園行事の計画と指導(夏祭り・七夕)		
	第7週	ペープサートの作成	第22週	園行事の計画と指導(保育参観)		
	第8週	ペープサートの作成	第23週	園行事の計画と指導(運動会)		
	第9週	子どもと言葉	第24週	園行事の計画と指導(発表会)		
	第10週	子どもと環境	第25週	園活動の計画と指導(保健指導)		
	第11週	子どもと人間関係	第26週	園活動の計画と指導(食育指導)		
	第12週	子どもと表現	第27週	保育園の計画と指導		
	第13週	子どもと健康	第28週	幼稚園の計画と指導		
	第14週	保育者としての意識	第29週	1年の園活動を振り返る		
	第15週	まとめ	第30週	試験・まとめ		
指導方法履修上の注意	<p>保育士、幼稚園教諭になる自覚のないものには、単位を認定できません。保育者になる意識をもち履修すること。</p>					
成績評価の方法	<p>筆記試験(30%)、製作(20%)、実技(20%)、授業態度(30%)</p>					
教科書	<p>『まあせんせいとHAPPY手あそび・歌あそび』(菊地政隆、小学館) 『3・4・5歳児の担任の保育の仕事まるごとブック』(神長美津子、ひかりのくに)</p>					
参考文献						

授業科目	乳 児 保 育		単位数	2	担当教員	岡 本 良 子
講義のねらいと概要	<p>地域の子育て支援としての乳児保育の役割と保育実践とを結びつけて理解できることを目的とする。到達目標は、乳児保育の実践的な学習に留まらず、乳幼児の成長発達の保障とともに働く母親を支えてきた乳児保育の歴史や現在の子育ての問題を理解し、様々なソーシャル・サポートとの連携に基づいた子育て支援としての乳児保育の役割を捉えられるようになることである。授業では、まず、乳児期の成長発達と援助について乳児保育の基礎となる知識を習得する。次に、乳児保育の歩みや乳児保育が必要となる背景と乳児保育の役割を理解し、さらに関係機関の役割や連携について学ぶ。</p>					
授業計画	第1週	オリエンテーション 乳児保育とは何か	第16週	社会福祉と乳児保育		
	第2週	新生児の成長発達と援助 ( 成長発達の特徴 )	第17週	社会福祉の歴史と乳児保育 ( 戦後の社会福祉発展の概要 )		
	第3週	新生児の成長発達と援助 ( 保育内容と適切な援助 )	第18週	社会福祉の歴史と乳児保育 ( 社会福祉基礎構造の確立と乳児保育 ) ( 高度経済成長と乳児保育 )		
	第4週	1～4か月児の成長発達と援助 ( 形態的成長、機能的発達と援助 )	第19週	社会福祉の歴史と乳児保育 ( 社会福祉基礎構造改革と乳児保育 )		
	第5週	1～4か月児の成長発達と援助 ( 精神的発達と援助 )	第20週	多様な乳児保育の場 ( 保育所等 )		
	第6週	5～12か月児の成長発達と援助 ( 形態的成長、機能的発達と援助 )	第21週	多様な乳児保育の場 ( 乳児院 )		
	第7週	5～12か月児の成長発達と援助 ( 機能的発達と援助 )	第22週	乳児保育の必要性和意義 ( 保護者の精神的不健康とかかわる要因 )		
	第8週	5～12か月児の成長発達と援助 ( 精神的発達と援助 )	第23週	乳児保育の必要性和意義 ( 一次予防 )		
	第9週	1歳児の成長発達と援助 ( 形態的成長、機能的発達と援助 )	第24週	乳児保育の必要性和意義 ( 一次予防 )		
	第10週	1歳児の成長発達と援助 ( 精神的発達と援助 )	第25週	乳児保育の必要性和意義 ( 二次予防 )		
	第11週	2歳児とそれからの成長発達と援助 ( 形態的成長、機能的発達と援助 )	第26週	乳児保育の必要性和意義 ( 二次予防 )		
	第12週	2歳児とそれからの成長発達と援助 ( 精神的発達と援助 )	第27週	乳児保育の必要性和意義 ( 三次予防 )		
	第13週	2歳児とそれからの成長発達と援助 ( 精神的発達と援助 )	第28週	家族への援助と関係機関との連携 ( 三次予防 )		
	第14週	乳児期の基本的生活習慣と援助	第29週	家族への援助と関係機関・他職種との連携 ( ケースマネジメント )		
	第15週	試験・まとめ	第30週	試験・まとめ		
指導方法 履修上の 注意	<p>( 1 ) 講義用プリント、資料、映像等を用いて授業をすすめる。 ( 2 ) 授業中の私語、携帯電話等の使用、飲食、化粧は禁止する。</p>					
成績評価の 方法	筆記試験 ( 70% )、授業態度 ( 30% )					
教科書	授業でプリントを配布する。					
参考文献	必要に応じて随時紹介する。					

授業科目	乳 児 保 育		単位数	2	担当教員	山 下 佳 香
講義のねらいと概要	<p>・乳児の特徴を知り、乳児に合わせた援助の在り方や、乳児期の成長・発達を理解を深める。</p> <p>・保育所保育指針のねらいや内容を理解し、集団生活の中での援助方法を学ぶ。</p> <p>乳児期の特徴を理解し、保育所における乳児保育の捉え方を保育所保育指針に照らし合わせ、乳児にとって望ましい保育とは何か、保育所の現場にて役立つ実践例を参考に、具体的な援助論も考えていきたい。</p>					
授業計画	第1週	リインフォ(教科の目標、授業への取り組み) 乳児、乳児保育の概念、乳児を取り巻く現在の環境	第16週	手作り玩具の発表		
	第2週	妊娠から出産まで (ビデオ「生命誕生」「うまれるよ」)	第17週	事故と安全		
	第3週	妊娠から出産まで	第18週	事故と安全		
	第4週	新生児、未熟児	第19週	乳幼児突然死症候群について		
	第5週	運動機能について(出生～15ヵ月)	第20週	病気と予防接種		
	第6週	運動機能について(15ヵ月～3歳児)	第21週	集団保育の中での乳児の看護		
	第7週	集団の中での乳児保育(0歳児)	第22週	沐浴実習、着脱、おむつ替え、抱っこ・おんぶ		
	第8週	集団の中での乳児保育(1～2歳児)	第23週	乳児観察についてのグループ討議		
	第9週	授乳、離乳食、食事	第24週	デイリープログラムとおとなの動き		
	第10週	排泄の発達	第25週	乳児の日常の計画と記録		
	第11週	ことばの発達	第26週	家庭との連携		
	第12週	人のかかわりについて	第27週	乳児保育が求められる社会的背景		
	第13週	睡眠、生活リズムについて	第28週	乳児保育の制度的理解		
	第14週	乳児の発達に即した玩具	第29週	乳児保育の今後の課題		
	第15週	試験	第30週	試験		
指導方法 履修上の 注 意	<p>ビデオやOHPなどを多く見て、学習をより具体的にします。</p> <p>保育現場より事例を多く取り入れ、その援助方法を考察する。</p> <p>保育現場で生かすことが出来る保育技術を学ぶ。</p>					
成績評価の 方 法	筆記試験(60%)、レポート(10%)、発表(15%)、実技(5%)、授業態度(10%)					
教 科 書	<p>『保育所保育指針解説書』(厚生労働省、フレーベル館)</p> <p>『乳児保育～一人ひとりが大切に育てられるために～』(吉本和子、エイデル研究所)</p>					
参 考 文 献	『幼稚園教育要領・保育所保育指針抜き刷り版』(建帛社)					



授業科目	指 導 技 術	単位数	2	担当教員	後 田 紀 子
講義のねらいと概要	<p>実習指導を通して、幼児教育の目的や保育者の役割を知り、意欲をもって取り組めるようにする。保育者が子どもと心を通わせながら、さらに子どもの興味・関心・要求などを汲み取り、相互作用としての指導をどのように展開をしたら良いか、自ら導き出せるようにする。</p> <p>また、子ども理解、環境、遊びを通しての保育方法等の理解を深めることを目的とする。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション 幼稚園の現状	第16週	保育者としての資質	
	第2週	幼稚園教育の基本	第17週	指導方法を考える①（命の大切さを知らせる）	
	第3週	年齢別の発達と遊び①	第18週	指導方法を考える②（命の大切さを知らせる）	
	第4週	年齢別の発達と遊び②	第19週	保育計画と活動の展開	
	第5週	遊びを通しての指導技術	第20週	部分実習の展開と指導方法	
	第6週	環境を生かした保育技術	第21週	指導用教材の作成①	
	第7週	手遊びについて	第22週	指導用教材の作成②	
	第8週	手遊びの実習	第23週	指導用教材の作成③	
	第9週	児童文化財の活用方法①	第24週	手作り教材を使った模擬保育①	
	第10週	児童文化財の活用方法②	第25週	手作り教材を使った模擬保育②	
	第11週	児童文化財の活用方法③	第26週	手作り教材を使った模擬保育③	
	第12週	児童文化財の活用方法（紙芝居・絵本）	第27週	子どもとの対応（事例検討）	
	第13週	紙芝居と絵本の読み聞かせの実習①	第28週	保護者との対応（事例検討）	
	第14週	紙芝居と絵本の読み聞かせの実習①	第29週	保育者としての資質を高める	
	第15週	まとめ	第30週	まとめ	
指導方法履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実習期間を考慮し、授業内容の順番が変更することもある。</li> <li>・授業には積極的に参加し、実践力を付けるように心がける。</li> <li>・授業内での教材・材料等を各自が用意をすることがあるので、指示、連絡等は良く聞くこと。</li> </ul>				
成績評価の方法	筆記試験（40%）、レポート・発表・実技（30%）、授業態度（30%）				
教科書	特になし				
参考文献	『幼稚園教育要領』 必要に応じて紹介する。				

授業科目	指 導 技 術	単位数	2	担当教員	遠 藤 朋 子
講義のねらいと概要	<p>幼児の発達段階に沿った育ちを知り、興味・関心をひきだせるような指導方法を身につける。各教科で培った知識を総合的に活用し、保育者として必要な心構えや専門性を高め、保育現場ですぐに役立つ指導技術を習得する。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション、幼稚園の現状	第16週	保育者としての資質	
	第2週	幼稚園教育の基本	第17週	保育計画と活動の展開	
	第3週	保育者の役割	第18週	部分実習の展開と指導方法	
	第4週	保育者としての資質	第19週	行事へのとりくみ	
	第5週	幼児の発達と遊び	第20週	行事へのとりくみ	
	第6週	教材の特徴と活用方法（手作りおもちゃ）	第21週	指導用教材の作成	
	第7週	教材の特徴と活用方法（ペーパースート、エプロンシアター）	第22週	指導用教材の作成	
	第8週	教材の特徴と活用方法（折り紙、手品等）	第23週	指導用教材の作成	
	第9週	教材の特徴と活用方法（絵本、紙芝居等）	第24週	手作り教材を使った模擬保育	
	第10週	手あそびについて	第25週	手作り教材を使った模擬保育	
	第11週	手あそびの実習	第26週	手作り教材を使った模擬保育	
	第12週	絵本の特徴と読み聞かせ方	第27週	子どもとの対応	
	第13週	絵本の読み聞かせの実習	第28週	保護者との対応	
	第14週	紙芝居・素話の特徴と演じ方	第29週	保育者としての資質をたかめる	
	第15週	まとめ	第30週	まとめ	
指導方法 履修上の 注 意	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義と実習を行う。</li> <li>・授業で使用する教材・材料等を各自が用意することがあるので、指示に従いそろえること。</li> <li>・実習期間を考慮し、授業内容の順番が変更することもある。</li> </ul>				
成績評価の 方 法	筆記試験（40％）、発表・実技等（30％）、授業態度（30％）				
教 科 書	『育ての心』上・下（倉橋惣三著、フレーベル館） 『実習に役立つ保育技術』（百瀬ユカリ著、創成社）				
参 考 文 献	必要に応じて紹介する。				

授業科目	教 育 相 談	単位数	2	担当教員	加賀谷 崇文
講義のねらいと概要	<p>教育相談は、家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導を行なう実践活動である。昨今子どもの成長過程を認識せずに親になっている大人が少なからずいて解決困難な場合が生じており、教育相談活動は複雑な様相を呈してきた。</p> <p>授業では、援助の前提となる子どもの発達とよく起こりえる問題を紹介していく。また、相談の実践に必要な援助技術として、心理カウンセリングなどの技法を紹介していく。</p>				
授業計画	第1週	教育相談とは何か			
	第2週	教育相談の実践			
	第3週	教育相談とカウンセリング			
	第4週	カウンセリングの技法1			
	第5週	カウンセリングの技法2			
	第6週	カウンセリングの技法3			
	第7週	子どもの発達			
	第8週	子どもに多く見られる心理的問題1			
	第9週	子どもに多く見られる心理的問題2			
	第10週	子どもに多く見られる発達の問題1			
	第11週	子どもに多く見られる発達の問題2			
	第12週	子育ての悩みとは			
	第13週	実践的練習			
	第14週	まとめ			
	第15週	レポートの作成			
指導方法 履修上の 注 意	<p>講義形式で行う。</p> <p>幼稚園の教育相談では、親の相談ごとに耳を傾けその心情を理解する謙虚な態度が不可欠である。その姿勢を身につけるためにも授業をしっかりと聞き取るという構えを求める。</p>				
成績評価の 方 法	レポート（90％）、授業態度（10％）				
教 科 書					
参 考 文 献					

授業科目	教 育 相 談	単位数	2	担当教員	伊 藤 明 芳
講義のねらいと概要	<p>教育相談は、保育者が相談者（主に保護者）に対して、家庭や幼稚園における子どもの教育上の問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導をおこなう実践活動である。</p> <p>背景に発達や環境の要因があると推測される子どもの問題行動から保護者の養育不安まで、相談内容は多岐にわたる。これからの保育者には保護者の心へのサポートもより意識的に求められるようになって考えられる。</p> <p>本講義では、教育相談の基礎的知識の習得と現場で生きる教育相談の実践的能力の育成を図る。さらに、保育者自身の心の安定と成長にもアプローチしたいと考えている。</p>				
授業計画	第1週	1. イントロダクション 教育相談とは何か			
	第2週	2. 体験から学ぶ相談に必要なこと ロールプレイ(1) [ 相談を受ける時の基本姿勢 ]			
	第3週	ロールプレイ(2) [ 意思を通じあうこと ]			
	第4週	3. 相談実践の基本と応用 教育相談の基礎(1) [ 概要 ]			
	第5週	教育相談の基礎(2) [ 実践へのヒント ]			
	第6週	教育相談のためのカウンセリング活用			
	第7週	教育相談のための心理アセスメント			
	第8週	教育相談のプロセス			
	第9週	4. 事例から学ぶ教育相談 子どもの心の発達・心の問題(1) [ 登園渋り ]			
	第10週	子どもの心の発達・心の問題(2) [ 落ち着きなし ]			
	第11週	子どもの心の発達・心の問題(3) [ 保護者の心 ]			
	第12週	5. 保育者の心の健康を育む カウンセリングの理論			
	第13週	エンカウンター実習			
	第14週	まとめ			
	第15週	今後へのアドバイスと試験			
指導方法履修上の注意	<p>講義を中心におこなう。実際の事例などをあげ、受講生にわかりやすい内容を心がけたい。</p> <p>その他、ロールプレイ、エンカウンター等も取り入れ、相談やカウンセリング等の体験的な学習もおこないたい。</p> <p>相談を受けて人に関わるとき、保育者には人間的かつ専門的な総合力が必要になる。そこで、受講者には積極的に授業に参加し、自ら学び考える意欲を持つことが求められる。</p>				
成績評価の方法	筆記試験（60％）、課題（40％）				
教科書	特に指定しない				
参考文献	講義の中で必要に応じて適宜紹介する				

授業科目	教 育 相 談	単位数	2	担当教員	今 水 豊
講義のねらいと概要	<p>教育相談は、家庭や幼稚園における子どものさまざまな問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導を行う実践活動である。昨今、子どもの成長過程を認識せずに親になっている大人が少なからずいて解決困難な場合が生じており、教育相談活動は複雑な様相を呈してきた。</p> <p>授業では、まず援助の前提となる子どもの発達とよく起こりうる問題を紹介していく。また、相談の実践に必要な援助技術として、心理カウンセリングなどの技法を紹介していく。</p>				
授業計画	第1週	教育相談とは何か？			
	第2週	教育相談とは何か？			
	第3週	子どもの発達の特徴			
	第4週	子どもの発達の特徴			
	第5週	子どもの発達の特徴			
	第6週	子どもに見られる発達・心理的問題			
	第7週	子どもに見られる発達・心理的問題			
	第8週	子どもに見られる発達・心理的問題			
	第9週	子どもに見られる発達・心理的問題			
	第10週	子どもに見られる発達・心理的問題			
	第11週	相談の実践			
	第12週	相談の実践			
	第13週	相談の実践			
	第14週	相談の実践			
	第15週	まとめ・筆記試験			
指導方法 履修上の 注 意	<p>講義形式で行う。</p> <p>幼稚園の教育相談では、親の相談ごとに耳を傾け、その心情を理解する。 謙虚な態度が不可欠である。 その姿勢を身につけるためにも授業をしっかり聞き取るという構えを求める。</p>				
成績評価の 方 法	筆記試験（50％）、課題（30％）、授業態度（20％）				
教 科 書	適宜、資料を配布する。				
参 考 文 献	授業にて適宜紹介する。				

授業科目	教 育 相 談	単位数	2	担当教員	土橋 祐巳子
講義のねらいと概要	<p>教育相談は、家庭や幼稚園における子どもの様々な問題について、その望ましい解決に向けて助言や援助指導を行う実践活動である。相談内容は子どもの発達や問題行動から保護者の養育不安など多岐にわたる。さらに、保育者は問題の解決方法の提示のほか、子どもや保護者の心のサポートも求められる。</p> <p>本講義では、教育相談の基礎的知識の習得と相談事例紹介、相談の実践に必要な援助技術の実習を行う。</p>				
授業計画	第1週	教育相談とは何か			
	第2週	教育相談とカウンセリングマインド			
	第3週	教育相談の実践(1)			
	第4週	教育相談の実践(2)			
	第5週	教育相談に活かすカウンセリングの技法(1)			
	第6週	教育相談に活かすカウンセリングの技法(2)			
	第7週	教育相談における心理アセスメント			
	第8週	子どもの発達と教育相談(1)子どもの発達の特徴と心の問題			
	第9週	子どもの発達と教育相談(2)子どもの心の問題と対応			
	第10週	子どもの発達と教育相談(3)子どもの発達の問題と対応			
	第11週	子どもの発達と教育相談(4)子どもの発達の問題と対応			
	第12週	保護者への支援と教育相談(1)			
	第13週	保護者への支援と教育相談(2)			
	第14週	教師への支援と教育相談			
	第15週	試験			
指導方法履修上の注意	<p>講義を中心に行う。その他、ロールプレイ、エンカウンターを取り入れた実習を通して体験的理解をねらう。将来、相談を受ける側になった際、自分ならどのように対応するかをイメージしつつ講義にのぞんでほしい。</p>				
成績評価の方法	筆記試験(60%)、授業態度(40%)				
教科書					
参考文献	講義の中で適宜紹介する。				

授業科目	教 育 実 習	単位数	4	担当教員	後田紀子 高橋 恵
講義のねらいと概要	<p>教育実習は、幼稚園教諭の免許状を取得するための必須科目である。また、教育実習は今まで学習をした教科の活用または応用であり、さらには今後の学習の課題を明確化するものである。よって、教育実習の意義や目的をしっかりと把握をし、幼稚園教諭（保育者）としての資質を習得していくことを目的とする。</p>				
授業計画	<p>○前期：見学、観察実習・参加実習</p> <p>実際の教育現場で、園児、教諭（保育者）の実践活動の見学、観察したり、参加することにより幼稚園教育の意義、教職員の職務内容や、人物、物的環境が、実際の教育の中でどのように活かされているかを把握する。</p> <p>（１）一週間と１日の教育の流れを理解する。  （２）園児の活動の様子を理解する。  （３）教諭（保育者）の職務内容と教育活動を理解する。  （４）教諭（保育者）としての自覚を確認する。</p> <p>※見学、観察実習、参加実習の記録の仕方を学習する。</p> <p>○後期：参加実習・指導実習</p> <p>前期実習での体験を基に、園児と積極的に関わり、指導の実地経験を積む。学校で学んだ理論や技術を実際の現場での指導体験と結びつけ、自らの保育観、目標を確立する。</p> <p>（１）幼稚園教育の実際を体験し、教諭（保育者）としての指導力、技能を確立する。  （２）教諭（保育者）の立場に立って指導計画を立案し、その指導を体験する。  （３）園児の安全、衛生面に対する配慮と措置について習得する。  （４）一人一人の園児についての理解を深め、適切な対応と指導を体験する。  （５）教諭（保育者）としての責任感、使命感を学び、園児のための環境づくりを考える。</p> <p>※教諭（保育者）の環境の構成や援助を視点ごとに捉えることを学習する。</p>				
指導方法履修上の注意	<p>「幼児教育研究」で履修した内容を実践すると同時に、実習園の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、日常生活において十分留意すること。</p> <p>また、実習報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等が合った場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行われる場合があり、幼稚園教諭免許状取得ができないことになるので厳重に注意をすること。</p>				
成績評価の方法	<p>実習園の評価及び実習上の取り組み（５０％）、実習日誌（３０％）、その他の課題等（２０％）全般にわたる総合評価により行う。</p>				
教科書	<p>『実習の手引き（実習委員会）』『幼稚園実習 保育所・施設実習』（大豆生他啓友、ミネルヴァ書房）</p>				
参考文献	<p>その都度必要に応じて紹介をする。</p>				

授業科目	幼 児 教 育 研 究		単位数	1	担当教員	後田紀子 高橋 恵
講義のねらいと概要	<p>教育実習の準備を行う。教育実習と平行して行われる授業で、実習の目的、幼稚園の機能、幼稚園教諭の職務内容や、実習手続き書類の作成について学習をする。また、幼稚園教育要領の理解を通して、幼稚園教育の内容を理解し、実習生として幼稚園生活に参加することをイメージする。子どもを理解し、援助の仕方に関する理解を深め、観察、参加、責任実習の段階における実習内容、実習記録、指導計画について学習することを目的とする。</p>					
授業計画	第1週	幼稚園教育実習の意義、目標、心得	第16週	後期実習の目的（参加、責任指導実習）		
	第2週	教育実習の目的理解	第17週	後期実習参加の心得		
	第3週	前期実習の目的（参加、観察実習）	第18週	部分、責任指導実習の留意点		
	第4週	前期実習参加の心得	第19週	実習日誌の作成指導①		
	第5週	実習手続き書類の作成指導①	第20週	実習日誌の作成指導②		
	第6週	実習手続き書類の作成指導②	第21週	実習日誌の作成指導③		
	第7週	オリエンテーションについて	第22週	指導計画案の作成指導①		
	第8週	持ち物、身だしなみについて	第23週	指導計画案の作成指導②		
	第9週	幼稚園の一日の流れと実習日誌の書き方	第24週	指導計画案の作成指導③		
	第10週	参加、観察実習の留意点	第25週	指導計画案の作成指導④		
	第11週	実習日誌の作成指導①	第26週	実習課題と準備の説明		
	第12週	実習日誌の作成指導②	第27週	オリエンテーション報告書、実習報告書の作成		
	第13週	実習課題と準備の説明①	第28週	実習評価と反省		
	第14週	実習課題と準備の説明②	第29週	教育実習全体を通しての反省		
	第15週	実習評価と反省	第30週	まとめ		
指導方法履修上の注意	<p>各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は「実習派遣規制基準」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意をすること。</p>					
成績評価の方法	<p>課題・レポート（60%）、授業態度（30%）、諸手続き（10%）</p>					
教科書	<p>『実習の手引き』（実習委員会）、『幼稚園実習 保育所・施設実習』（大豆生他啓友、ミネルヴァ書房）</p>					
参考文献	<p>『幼稚園教育要領』</p>					



授業科目	保育・教職実践演習（幼稚園）	単位数	2	担当教員	豊泉・小堀・後田・丸橋
講義のねらいと概要	この演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目の履修状況を踏まえ、幼稚園教諭として必要な、知識及び技術を修得したことを確認していくものである。 幼稚園での（保育現場としての）視点を取り入れ、幼稚園教諭としての最小限必要な資質能力を明確にし、演習形式によりこれまでに不足していると思われる知識、技術を各自が認識し、積極的に身につけるように取り組める内容を展開する。				
授業計画	第1週	教職実践演習（幼稚園）の授業の進め方について・これまでの学修の振り返りについて			
	第2週	保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について（講義、レポート）			
	第3週	保育者の役割、職務内容、子どもに対する責任等について（グループ討議）			
	第4週	組織の一員としての自覚について（講義、レポート）			
	第5週	保護者や地域の関係者との人間関係の構築について（講義、グループ討議）			
	第6週	幼児理解について（講義、レポート）			
	第7週	幼児理解について（グループ討議、ロールプレイング）			
	第8週	学級経営・学級経営案の作成について（講義、レポート）			
	第9週	学級経営について（グループ討議）			
	第10週	実技指導			
	第11週	実技指導			
	第12週	実技指導			
	第13週	保育内容、保育内容の指導力について（講義、レポート）			
	第14週	保育内容の指導力について（グループ討議）			
	第15週	資質能力の確認、まとめ			
指導方法履修上の注意	毎回のテーマに沿って、講義、レポート作成、グループ討議を行う。各自が課題を持って積極的に取り組むこと。 毎回の内容を積み上げながら取り組むため、原則として欠席はしないように。				
成績評価の方法	レポート（50%）、授業態度・授業への取り組み（50%）				
教科書	必要に応じて、資料を配布または指示する（例：幼児教育研究にて使用しているテキスト持参）				
参考文献	必要に応じて随時紹介する。				

授業科目	保 育 所 実 習	単位数	2	担当教員	丸 橋 聡 美
講義のねらいと概要	<p>保育士証取得を目的とする保育実習は、保育に関する講義や演習で学んできた内容を保育所及び保育所以外の児童福祉施設等で実践するものである。保育所実習のうち前期実習が保育所実習 になる。(後期実習は、保育所実習 として実施。)</p> <p>保育所実習 の目標は、保育所の生活に参加し観察や子どもとのかかわりを通して子どもへの理解を深めるとともに、保育所の役割や機能、日々の保育の展開、保育の計画や記録及び自己評価、保育士としての業務内容や職務倫理について学ぶ。</p> <p>第1学年(二部は第2学年)に12日間実施。</p>				
授業計画	<p>実習施設について理解する</p> <p>保育の一日の流れを理解し、参加する</p> <p>子どもの観察とその記録より子どもを理解する</p> <p>子どもの発達過程を理解し、子どもへの援助やかかわりを学ぶ</p> <p>保育の計画や子どもの発達過程に応じた保育内容を学ぶ</p> <p>子どもの生活や遊びと保育環境を学ぶ</p> <p>子どもの安全及び疾病予防への配慮について理解する</p> <p>保育課程の意義を理解しそれに基づく指導計画を学ぶ</p> <p>記録に基づく省察や自己評価を行なう</p> <p>子どもの最善の利益を具現化する方法について学ぶ</p> <p>保育士の業務内容や職員間の役割分担と連携について理解する</p> <p>保育士の役割と職業倫理を学ぶ</p>				
指導方法 履修上の 注 意	<p>「保育所実習研究」で履修した内容を実践すると同時に、保育所の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、日常生活において十分に留意すること。また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得が出来ないことになるので厳重に注意すること。</p>				
成績評価の 方 法	<p>実習課題(20%)、実習日誌(30%)、実習施設による評価(50%)</p>				
教 科 書	<p>『実習の手引き』(実習委員会)、『保育所保育指針』</p>				
参 考 文 献	<p>保育所実習研究の授業で使用する配布資料及び参考文献をよく参照すること。</p>				

授業科目	施設実習	単位数	2	担当教員	小堀哲郎
講義のねらいと概要	<p>施設実習を通して、施設の役割や機能、日々の生活の展開、利用者の理解と関係の形成、保育者としての職務内容等について实际的に学習する。</p> <p>保育士証を取得するため、保育実習（必修）の中に施設実習を行なうことが定められており、保育に関する講義や演習で学んできた内容を児童福祉施設、知的障害者施設等で実践するものである。</p>				
授業計画	<p>実習施設の目的・機能の理解①</p> <p>実習施設の目的・機能の理解②</p> <p>実習施設の人的・物的環境の理解①</p> <p>実習施設の人的・物的環境の理解②</p> <p>施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得①</p> <p>施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得②</p> <p>施設の利用者の生活実態の把握と援助技術の習得③</p> <p>保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解①</p> <p>保育士の職務内容・役割・他職種との連携の理解②</p> <p>施設と地域・家庭・関係機関等との連携についての理解</p> <p>反省会・まとめ</p>				
指導方法 履修上の 注意	<p>「福祉施設実習研究」で履修した内容を理解して実践すると同時に、施設の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、十分に留意すること。</p> <p>また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得ができないことになるので注意すること。</p>				
成績評価の方法	<p>授業態度（50%）、実習評価（50%）</p>				
教科書	<p>特になし</p>				
参考文献	<p>施設種別毎の「実習園資料」（本学実習資料室のもの）等を、数多く参照すること。</p>				

授業科目	保 育 所 実 習	単位数	2	担当教員	丸 橋 聡 美
講義のねらいと概要	<p>保育所実習 の目標は、保育所の保育を実際に実践し、子ども理解、かかわりの視点の明確化、指導計画の作成・実践など保育士としての資質・能力・技術を修得する。また、子どもの保育及び保護者支援、地域の子育て家庭への支援について総合的に学び、保育所の役割や機能について理解を深める。</p> <p>後期実習は、主に参加・責任実習であり、前期実習で学んだ基本的内容を踏まえ、積極的に保育活動に参加し、保育の理論と技能を総合的に体験し、自らの保育観や目標を確立する。第2学年（二部は第3学年）に12日間実施。</p>				
授業計画	<p>保育所の社会的役割と責任を学ぶ</p> <p>養護と教育が一体となって行なわれる保育を学ぶ</p> <p>子どもの心身の状態や活動の観察をする</p> <p>保育士等の動きや実践の観察をする</p> <p>保育所の生活の流れや展開の把握を学ぶ</p> <p>環境を通して行なう保育、生活や遊びを通して総合的に行なう保育を理解する</p> <p>入所している子どもの保護者支援及び地域の子育て家庭への支援を学ぶ</p> <p>地域社会との連携を学ぶ</p> <p>保育課程に基づく指導計画の作成・実践・省察・評価と保育の過程を理解する</p> <p>作成した指導計画に基づく保育実践と評価を行なう</p> <p>多様な保育の展開と保育士としての業務、職業倫理を理解する</p> <p>保育士としての自己の課題を明確化する</p>				
指導方法 履修上の 注 意	<p>「保育所実習研究」で履修した内容を実践すると同時に、保育所の指導を受け、実習生としてふさわしい言動がとれるように、日常生活において十分に留意すること。また、実習関係報告書類の提出遅延、実習中の怠惰、非行等があった場合は、本学の「実習派遣規制基準」によって、実習の停止、中止等が行なわれる場合があり、保育士証取得が出来ないことになるので厳重に注意すること。</p>				
成績評価の 方 法	<p>実習課題（20%）、実習日誌（30%）、実習施設による評価（50%）</p>				
教 科 書	<p>『実習の手引き』（実習委員会）、『保育所保育指針』</p>				
参 考 文 献	<p>保育所実習研究の授業で使用する配布資料及び参考文献をよく参照すること。</p>				

授業科目	保育所実習研究	単位数	1	担当教員	丸橋聡美・丸山アヤ子
講義のねらいと概要	<p>この保育所実習研究は、保育所実習に平行して行われる授業であり、実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容や、実習手続き書類の作成について学習し、実習参加意識の高揚、各自の実習課題と事後の学習目標を立てる等、保育実習の意義を高めるものである。</p> <p>保育所実習研究の目標は、保育実習の意義・目的・内容を理解し、自らの課題を明確にする。子どもの人権と最善の利益の考慮などを理解し、実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法について学ぶ。実習の事後指導を通して、実習の総括と自己評価を行い、新たな課題や目標明確にする。</p>				
授業計画	第1週	保育実習、保育所実習について			
	第2週	保育所実習の目的理解			
	第3週	前期実習の目的（参加、観察実習）			
	第4週	前期実習参加の心得			
	第5週	実習手続き書類の作成指導（配当資料）			
	第6週	実習手続き書類の作成指導（調査書）			
	第7週	オリエンテーションについて			
	第8週	持ち物、身だしなみについて			
	第9週	保育園の一日の流れ、実習中の注意事項			
	第10週	参加、観察実習の留意点			
	第11週	実習日誌の作成指導			
	第12週	実習日誌の作成			
	第13週	実習課題と準備の説明			
	第14週	実習課題と準備の作成			
	第15週	実習の総括と自己評価			
指導方法履修上の注意	<p>各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。</p>				
成績評価の方法	課題・レポート（60％）、授業態度（30％）、諸手続き（10％）				
教科書	『実習の手引き』（実習委員会） 『保育所保育指針』				
参考文献					

授業科目	保育所実習研究	単位数	1	担当教員	丸橋聡美・丸山アヤ子
講義のねらいと概要	<p>この保育所実習研究は、保育所実習に平行して行われる授業であり、実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容や、実習手続書類の作成について学習し、実習参加意識の高揚、各自の実習課題と事後の学習目標を立てる等、保育実習の意義を高めるものである。</p> <p>保育所実習研究の目標は、保育実習の意義・目的を理解し、総合的に学ぶ。実習や既習の教科の内容や関連性を踏まえ、保育の全体的計画に基づく具体的な計画や保育実践力を培う。保育士の専門性と職業倫理を理解する。実習の総括と自己評価を行い、保育に対する課題や認識を明確にする。</p>				
授業計画	第1週	後期実習の目的（参加、責任指導実習）			
	第2週	後期実習参加の心得			
	第3週	部分、責任指導実習の留意点			
	第4週	実習日誌の作成指導			
	第5週	実習日誌の作成（乳児クラス）			
	第6週	実習日誌の作成（幼児クラス）			
	第7週	指導計画案の作成指導			
	第8週	指導計画案の作成（乳児クラス）			
	第9週	指導計画案の作成（3歳児クラス）			
	第10週	指導計画案の作成（4・5歳児クラス）			
	第11週	実習課題と準備の説明・作成			
	第12週	オリエンテーション報告書、実習報告書の作成			
	第13週	実習の総括と自己評価			
	第14週	子ども観、保育観の確立と職業倫理について			
	第15週	課題の明確化			
指導方法 履修上の 注意	<p>各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、授業態度の怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられており、実習派遣ができなくなるので十分に留意すること。</p>				
成績評価の方法	課題・レポート（60%）、授業態度（30%）、諸手続き（10%）				
教科書	<p>『実習の手引き』（実習委員会）</p> <p>『保育所保育指針』</p>				
参考文献					

授業科目	福祉施設実習研究	単位数	1	担当教員	小堀哲郎・山崎信一
講義のねらいと概要	<p>この授業は、施設実習の前後に行なわれるものである。事前授業では実習の目的、実習施設の機能、保育者の職務内容、および実習手続き書類の作成等について学習し、実習心得を身に付け、実習参加意欲の高揚を図るとともに、各自の実習課題を確立する。</p> <p>実習後授業は、実習報告会の参加、実習報告書と実習アンケートの作成等を通して、自己の適性を見直し、保育者としての使命感や人権意識等を考え今後の学習課題を設定する。</p>				
授業計画	第1週	オリエンテーション			
	第2週	施設実習の意義を理解する			
	第3週	実習施設の配当発表及び各実習施設の理解			
	第4週	居住型福祉施設の生活実態を知る（VTR）			
	第5週	実習生調査書の清書			
	第6週	実習日誌の書き方			
	第7週	児童福祉の相談機関、施設の概要①			
	第8週	児童福祉の相談機関、施設の概要②			
	第9週	施設実習の様子、実習生の動き方を学ぶ			
	第10週	実習に挑む心得①			
	第11週	実習に挑む心得②			
	第12週	実習に向けての最終確認			
	第13週	実習評価と反省			
	第14週	実習報告会の参加（代表者）			
	第15週	実習報告書の作成			
指導方法履修上の注意	<p>各実習園に対する注意事項の説明、提出書類の作成等を行うので、原則として欠席は認めない。また、実習提出書類の遅延、非行・怠惰等は、「実習派遣規制基準」によって禁じられているので十分に留意すること。</p> <p>◎派遣施設が決まったら、自主的にその施設機能や利用者について予備学習を行うこと。</p>				
成績評価の方法	課題（30%）、レポート（20%）、授業態度（50%）				
教科書	なし				
参考文献	授業中に適宜紹介する。				